

下北半島のサル

2025年度（令和7年度）

調査報告書



NPO法人
ニホンザル・フィールドステーション

令和7年度

天然記念物生息調査

むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

調査報告書

令和8年5月

特定非営利活動法人 ニホンザル・フィールドステーション

令和7年度 天然記念物生息調査
むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査地域	1
3 調査内容	2

II 調査結果

1. 通年調査（春季～夏季）	2
2. 2025年度 夏季ニホンザル生息調査（脇野沢・川内地区）	
2-1 調査の概要	7
2-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果	7
2-3 夏季ニホンザル調査中に確認した群れの結果	10
3. 通年調査（秋季）	21
4. 2025年度 冬季ニホンザル生息調査（大畑・薬研地区）	
4-1 調査の概要	22
4-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果	22
4-3 冬季ニホンザル生息調査中に確認した群れの結果	27
5. 補足調査（冬季）	34
6. 2025年度 各群れごとの結果	
脇野沢地区	37
川内地区	43
大畑・薬研地区	45
7. 調査員名簿	51

III まとめ

2025年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果	52
むつ市管内 脇野沢・川内・大畑地区のニホンザル	62

大分下北行ったり来たり

～ 高崎山と下北半島のサル雑感 ～	64
-------------------	----

コゴミとクルミン	68
----------	----

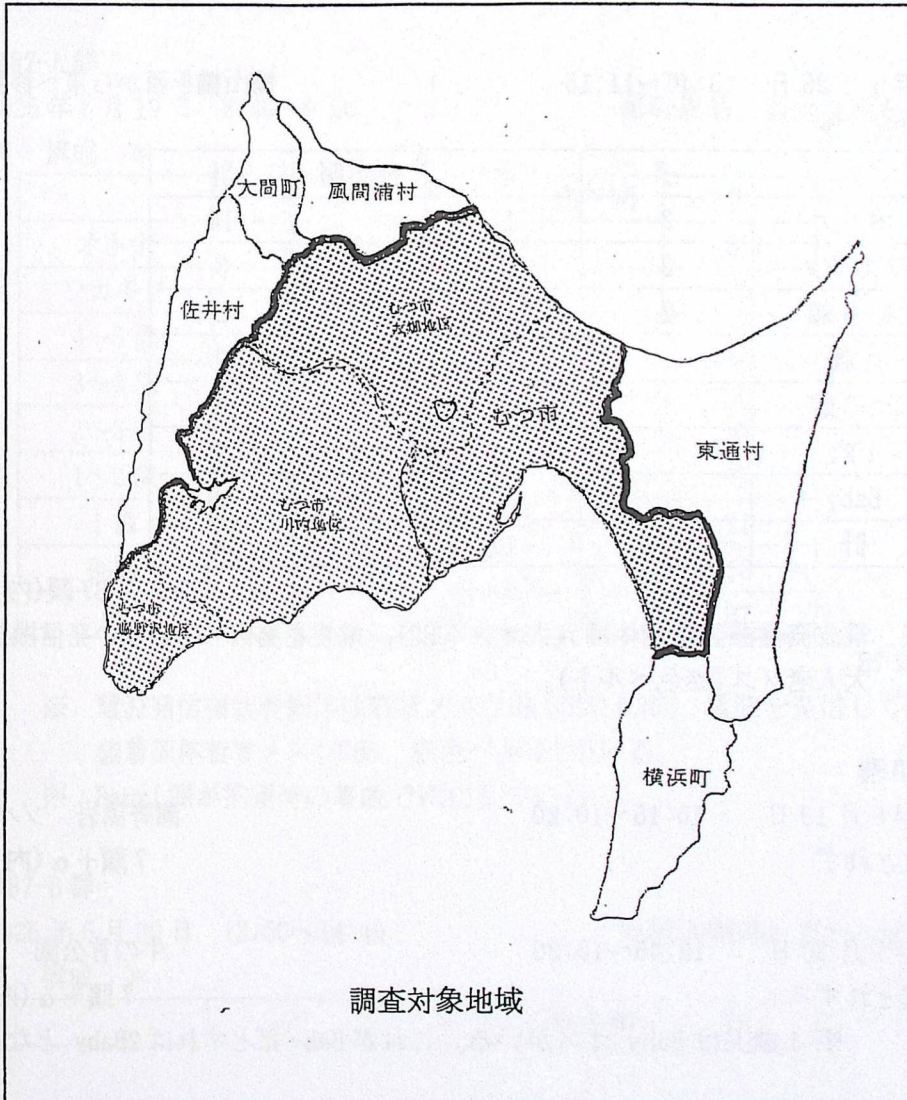
I 調査の概要

1. 調査目的

下北半島に生息するニホンザルは、現在、個体数・群れ数の増加等で農作物の食害のみならず、集落地への定着が進み地域住民の生活被害が生じている。本天然記念物生息調査は、地域住民とニホンザルとの共生につながる現状把握、将来像に必要な情報を得ること、サル生態的研究等を目的とし、むつ市管内脇野沢・川内地区、大畑・薬研地区に生息するニホンザルの生息調査を実施した。

2. 調査地域

むつ市 脇野沢地区・川内地区・薬研地区・大畑地区



3. 調査内容

地元調査員による小規模な調査を通年調査(春季～夏季・秋季・冬季)とし、8月上旬に夏季ニホンザル生息調査(脇野沢・川内地区)、12月下旬に冬季ニホンザル生息調査(大畑・薬研)、を実施した。また、聞き取り調査も加味し、2025年度(令和7年度)むつ市管内に生息するニホンザル生息実態調査として報告する。

II 調査結果

1. 通年調査 (春季～夏季)

○ A2-84A 群

・2025年4月25日 14:30～15:30

構成とれず

新井田地区 県道

28頭+ α (内5Baby)

・2025年6月25日 10:40～11:15

《 構成 》

館山橋を西から東へ移動時

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
ワカモノ	3			3
4～5歳	2			2
3歳			2	2
2～3歳	1		3	4
1歳			2	2
Baby			10	10
計	9	11	17	37

37頭(内10Baby)

※ 電波発信機装着個体は大人オス(CH2)。電波を発信していない発信機装着個体
大人老メス(赤色ベルト)。

○ A2-84B 群

・2025年6月19日 10:15～10:20

構成とれず

瀬野黒岩 ソバ畑

7頭+ α (内1Baby)

・2025年7月30日 12:45～15:30

構成とれず

牛の首公園

7頭+ α (内1Baby)

※ 1歳又はBaby オスがいます。これがBabyだとすれば2Babyとなる。

・2025年8月2日 9:20~11:00

瀬野黒岩 ソバ畑入口

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	4		5
ワカモノ		1		1
4~5歳		1		1
3~4歳			1	1
1歳	1		1	2
Baby			1	1
計	2	6	3	11

11頭+α (内1Baby)

※ もう一組親子がいる可能性がある

○ A87-A群

・2025年6月19日 8:40~9:50

瀬野黒岩 農地を西から東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	29		33
ワカモノ	2	4	1	7
4~5歳	2			2
3~4歳	2			2
2~3歳	3	2	4	9
1~2歳	1	2		3
1歳	3	3	7	13
Baby			18	18
計	17	40	30	87

87頭(内18Baby)

※ 電波発信機装着個体は若者メス2頭(CH3)(CH5)、電波を発信していない発信機装着個体若者メス((CH5 赤色ベルト)がいる。

※ Baby1頭が捕獲時の事故で死亡している。

○ A87-B群

・2025年6月30日 13:55~14:40

九艘泊集落を西から東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計

オトナ	5	15	2	22
ワカモノ	3	1	1	5
3～4歳			3	3
2～3歳			7	7
1～2歳			4	4
1歳			3	3
Baby			12	12
計	8	16	32	56

56頭(内12Baby)

※ 電波発信機装着個体は若者メス(CH1)、電波を発信していない発信機装着個体大人メス((CH3 緑色ベルト)がいる。

○ 01-A1 群

・2025年6月6日

むつ市野猿監視員日隅氏からの情報

32頭(内8Baby)

(大人オス3、大人メス10)

○ 01-A2 群

・2025年7月11日 9:40～11:35

七引橋東 脇野沢川を横断時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	17		20
ワカモノ	5	5	1	11
4～5歳	2			2
3～4歳	1	3	5	9
2～3歳	1	1	5	7
1～2歳	1		4	5
Baby			16	16
計	13	26	31	70

70頭+α(内16Baby)

※ 電波発信機装着個体は大人老メス(CH1 赤ベルト)。ベルトが首にこすれてただれていることもあるが、かなりよぼよぼ。

○ 01-B 群

・2025年8月4日 9:45～11:20

源藤城集落北 国道338号線を東から西へ移動時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	10	1	14
ワカモノ	5	2	2	9
3～4歳			3	3
2歳			1	1
1～2歳			1	1
1歳			3	3
Baby			8	8
計	8	12	19	39

39頭 + α (内 8Baby)

※ 電波発信機装着個体は大人メス (CH2 黄緑色ベルト)。

○ 02-A 群 その1

・ 2025年6月28日

10:05～10:45

国道338号線(海峡ライン)M字カーブ

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	10		12
ワカモノ	1		1	2
3～4歳		1	2	3
2～3歳			1	1
2歳	1			1
1歳	1	1	2	4
Baby			7	7
年齢不明			1	1
計	5	12	14	31

31頭 + α (内 7Baby)

※ 電波発信機装着している個体はいない。

○ 02-B 群

・ 2025年4月26日 9:45～10:30

国道338号線(海峡ライン) M字カーブ北

構成とれず

40頭 + α (内 7Baby)

・ 2025年7月24日 9:45～10:25

国道338号線(海峡ライン) 旧イノシシ飼育場北

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計

オトナ	4	17		21
ワカモノ	3	4		7
4歳			1	1
3～4歳	1	1	5	7
2～3歳	1	1	2	4
1～2歳		2	2	4
Baby			9	9
計	9	25	19	53

53頭 + α (内 9Baby)

※ 電波発信機装着個体は大人老メス (CH4 青色ベルト)。

○ オスグループ

・ 2025年6月23日 16:00～16:15 蛸田東 海岸線

ワカモノ♂	10歳ぐらい	1
ワカモノ♂	7～8歳	2
ワカモノ♂	5～6歳	3
ワカモノ♂	3歳	1

7頭

○ 不明群 {A87-B群の分派の可能性大}

・ 2025年7月23日 九艘泊～滝山線 九艘泊側 サル看板付近

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ		2		2
ワカモノ	2			2
2～3歳	1			1
2歳		1		1
Baby			2	2
年齢不明			1	1
計	3	3	3	9

9頭 + α (内 2Baby)

※ 電波発信機装着している個体はいない。

○ 不明群

・ 2025年4月上旬

市民からの情報

大湊浜町 常楽寺近くの林縁

多数のサル

2. 2025年度 夏季ニホンザル生息調査 (脇野沢・川内地区)

2-1 調査の概要

2025年8月6日から8月9日までの4日間、10名の調査員で脇野沢地区と川内地区の調査を実施した。調査期間中、初日から3日間、雨ならびに曇り時々雨、最終日の4日目に晴れと猛暑にもかかわらず雨降りが多かったものの比較的過ごしやすい気温の中での調査となった。例年悩まされていたアブの襲来も少なく、林道歩きや自動車にまとわることも少なかった。暑さのピークは過ぎていたかに見えた。ブナの実は最悪で凶作、ミズナラも結実が少なかった。サルナシ、マタタビ、ヤマブドウ等は例年並みか、やや悪い状況だった。エビガライチゴも悪く、夏から秋への山の実は良くないことが示唆された。また、カシノナガキクイムシによるミズナラの大量の立ち枯れが目立ち、かなりの被害が出ていることが確認できた。サルの体毛の夏毛から初秋の状況に進んでいた。

2-2 調査日、ならびに各パーティごとの結果

◎ 8月6日 曇り時々雨

(脇野沢地区)

- ・午前中、マスコミ対応。田の頭林道入口広場で01-A2群(CH1)を8:30~10:00まで観察、また、同時間帯に斎場のソバ畑周辺にA87-A群(CH3、CH5)を確認。その後、国道338号線(海峡ライン)を流汗台まで車でパトロール。サル情報なし。11:30~15:00男川林道を車でパトロールと踏査。1321~1445男川B群を板家戸林道出合で24頭+ α (内4Baby)をカウント。15:10~16:00宿野部川林道を車でパトロールと踏査。15:02~15:50貯木場広場で5頭+ α をカウント。5頭はすべてオスであったことやフルカウントではないことから男川A群か、オスグループだろうと推測。現時点では同定できない。
- ・サル山公園横の国道338号線で8:57~11:45まで01-A1群(CH5)を観察。10:27~10:52滝山橋を西から東へ移動する33頭(内9Baby)をフルカウント。その後、国道338号線(海峡ライン)の流汗台まで車でパトロール。その後、源藤城林道と面木林道を踏査。再び国道338号線(海峡ライン)を流汗台まで車でパトロール。脇野沢川西の片貝の畑方向から14:0001-B群(CH2)の電波を受信。また、14:17源藤城の畑でオトナ♂1頭を目撃、ハナレザルか群れのサルかは不明。海峡ラインの青色道路標示板の南で16:12~16:28オトナ1頭(性別不明)が谷側へ移動する姿を目視。16:35~16:55源藤城集落北の国道338号線を西から東へ横断する01-B群(CH2)を観察。17:08国道338号線のスキー場付近を西から東へ横断するA87-A群(CH3、CH5)を目撃。

(川内地区)

- ・国道338号線(海峡ライン)、県道畑一牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。砥石沢林道、湯の小川林道を踏査。また、新助沢林道と和白沢林道を車でパトロール。8:58国道338号線(海峡ライン)の石碑北で4頭を目視、谷側へ降りて行った。周辺

るがサルの姿は見られなかった。

- ・面木沢林道のブナオ沢、滝の沢、下面木沢の伐開地を踏査。12:15 面木沢の右岸伐開地でサルの鳴き声、13:18 伐開地の谷あいにて 7 頭のサルを発見。多数頭の声が谷奥から聞こえる。13:38 サルの気配が亡くなる。サルの群れは南下している模様。テレメによる確認で 8:12 田の頭林道で 01-A2 群(CH1)、スキー場入口で 01-A1 群(CH5)。17:53~18:05 源藤城の中山間畑で 01-B 群 38 頭 + α を目視。また、18:12 源藤城橋付近で 02-B 群(CH4)の電波がとれる。午前中に観察していたサルが 02-B 群の可能性が高くなる。
- ・蛸崎越林道と源藤城林道を踏査。サル情報なし。その後、国道 338 号線(海峡ライン)を車でパトロール。13:40~13:42 国道 338 号線(海峡ライン)の武士泊林道入口付近で 7 頭のサルの群れを目視。その後、この群れは 15:30 M 字カーブ北まで移動。群れの群れ名は不明。

(川内地区)

- ・国道 338 号線(海峡ライン)、県道畑一牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。9:20~9:30 畑集落で M2-B3 群(CH5) 2~3 頭を目視。また、カモシカラインでサルの群れと出会う。11:00~13:11 佐井村との町村境で 43 頭(内 7Baby)をカウント。場所と個体数より M2-B2 群。電波発信機はついていない。13:10 上小倉平集落北で 2 頭のサル、安部城北 A 群(CH5)を目撃。
- ・国道 338 号線(海峡ライン)、県道畑一牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。8:33~8:48 上小倉平集落北で安部城北 A 群(CH5) 10 頭を目視。その後、9:10~10:29 県道川内-佐井線の湯の沢開拓付近で 15 頭 + α (5Baby)をカウント。場所と個体数から M2-B1 群、電波発信機がついていない。その後、11:45~13:11 県道川内-佐井線(カモシカライン)の佐井村との境尾根でサルの群れを目視するがこの群れの結果は別の調査員に委ねる。帰路、国道 338 号線(海峡ライン)の大荒川林道出合付近でサルの群れを発見したが、この群れの結果は別の調査員が報告する。

2-3 夏季ニホンザル調査中に確認した群れの結果

【 脇野沢地区 】

○ 01-A1 群

・ 2025 年 8 月 6 日

10:27~10:52

滝山橋を西から東へ横断時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
5~6 歳	1			1
4~5 歳	1			1
2~3 歳			5	5
2 歳			1	1

1～2歳			2	2
Baby			9	9
計	5	11	17	33

33頭(内9 Baby)

※大人メス3頭に電波発信機が装着されている。(CH5、CH5、CH5)ただし1頭の電波発信機は電波を発信していない

※ 02-A群

02-A群については、2024年度の調査報告で02-A群その1と02-A群その2としていたが、その後の調査と今回の調査で02-A群が分裂していることが明らかとなった。今回からは02-A1群と02-A2群とする。

○ 02-A1群

・2025年8月8日 10:54～11:40 国道338号線(海峡ライン) 石碑付近
 << 構成 >>

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	10		14
ワカモノ		2	1	3
3歳		1		1
2歳		1	2	3
1歳			2	2
Baby			6	6
年齢不明			1	1
計	4	14	12	30

30頭+α (内6 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない

○ 02-A2群

・2025年8月9日 11:39～12:30 国道338号線(海峡ライン) 流汗台南
 << 構成 >>

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
ワカモノ	1	1	2	4
4～5歳		1		1

の道路上に多数の食痕を確認。脇野沢地区観察グループに委ねる。14:30~14:39 畑集落の工藤林業と川内川との間でM2-B3群(CH5)を7頭+ α をカウント。まだまだいる。一日中この付近にいる模様。

- ・県道川内-佐井線(カモシカライン)を車でパトロールと安部城集落、砥石沢林道を踏査。9:03~13:20 安部城北 A 群(CH5)を観察。11:32~13:11 県道川内-佐井線を西から東へ移動する34頭+ α (内6Baby)をカウント。また、14:30~15:15 砥石沢林道と三九郎川林道の子出会い付近で6頭+ α (内1Baby)を目視。ただ、設置カメラで11頭+ α (内3Baby)を確認。M2-B1群かM2-B2群なのかは現状ではわからない。15:49 畑集落でM2-B3群(CH5)をテレメで確認。

◎ 8月7日 雨時々曇り

(脇野沢地区)

- ・舘越橋東で01-A2群(CH1)10頭を目視、通常調査で調査済み。8:37~9:00 源藤城集落北で01-B群(CH2)と01-A1群(CH5)をテレメで確認。その後、国道338号線湖(海峡ライン)でもう一つの調査チームと合流。16:30 調査終了。
- ・国道338号線(海峡ライン)を車でパトロール。川内地区の調査グループより石碑南でサルを目撃情。9:10~9:25 国道338号線(海峡ライン)の石碑付近で02-A群その1又はその2を23頭+ α (内5Baby)をカウント。電波の取れない群れ。8月6日石碑北で目撃した4頭のサルもこの群れだと推測。その後、10:01~15:40 国道338号線(海峡ライン)の道路標示板付近で7頭(1Baby)を目撃、この7頭を追跡すると15:40 石碑で午前中にカウントした群れと合流する。結局30頭+ α (内6Baby)だとわかる。発見時、直線で1.5kmほど離れていて追跡しなければ別の群れとしていたかもしれない。

(川内地区)

- ・国道338号線(海峡ライン)、県道畑-牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。新助川林道、湯の小川沢林道を踏査。その後、上、下小倉平集落周辺を車でパトロール。14:01~15:10 県道川内-佐井線(カモシカライン)の畑集落北の道路沿いで3頭の α (5~6歳、6~7歳、3歳)を目撃するが、別チームが観察している国道338号線(海峡ライン)、県道畑-牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。M2-B3群(CH5)の一部と思われる。15:32~16:25 国道338号線(海峡ライン)のアンド山北の道路を東から西へ横断する26頭+ α (内7Baby)をカウント。電波は取れず、現時点では02-A1群のその1、その2、佐井地区の群れの可能性がある。
- ・国道338号線(海峡ライン)、県道畑-牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。砥石沢林道を踏査。9:39 畑集落でM2-B3群(CH5)を確認。14:25~15:45 県道畑-牛滝線の畑集落近くの獣魂碑の公園で5頭を目視、群れは川を左岸から右岸へ渡った模様。

◎ 8月8日 曇り一時雨のち晴れ

(脇野沢地区)

- ・国道 338 号線(海峡ライン)の青色道路標識板付近でオトナ♂(左手人差し指が曲がらない)とオトナ♀(CH4)の 2 頭を目視。その後、この 2 頭を追跡。発見時近くの道路上に新しいフン 13 個を発見、群れが通過したことを確認する。2 頭の確認は 16:45 まで。武士泊林道を踏査時に多数の食痕を確認。その後、源藤城林道、面木沢林道を踏査。16:08 源藤城林道入口で国道 338 号線を東から西へ移動する 01-B 群(CH2)を確認。17:50 斎場への橋で A87-A 群(目視)、スキー場の橋付近に 01-A1 群(CH5)、田の頭沢林道側で 01-A2 群(CH1)をテレメで確認。
- ・国道 338 号線(海峡ライン)の石碑南で 8:53 電波の取れない群れを確認。8 月 7 日に石碑近くで観察した群れと同一。その後、カウント機会を探しながら群れを追跡する。10:54 ~11:40 石碑近くで 30 頭 + α (内 6Baby) をカウント。その後、川内地区へ調査に向かう途中、国道 338 号線(海峡ライン)の Анд 山北で 18 頭 + α をカウント。8 月 7 日、同じような地点で 26 頭カウントした群れだろう。電波は取れない。その後、川内地区で県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。畑集落でサルを目撃したが別の調査員に委ねる。14:25 上小倉平出道路上のサルの食痕を発見、近くで農作業していた地元の方に聞き取り。今朝、6 頭ぐらい畑に出没していたとの情報。近くの農道を踏査。15:05 神社北の森で鳴き声、枝が揺れる状況を確認。テレメも取れ安部城北 A 群(CH5)と断定。
- ・男川林道を西大家戸沢林道出合までを踏査。9:50~10:20 滑川林道出合より西 500m 地点の左岸で 5 頭(目視 2 頭) + α を確認。その後、宿野部川林道を車でパトロール。金八沢林道と西股沢林道を踏査。堰堤上に古いフンを確認する。金八沢林道にススキの食痕を確認するがそれ以外のサル情報はなかった。

(川内地区)

- ・国道 338 号線(海峡ライン)、県道畑-牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。砥石沢林道と湯の小川沢林道を踏査。15:04~16:00 県道川内-佐井線の畑集落北の道路を西から東へ横断する M2-B3 群(CH5) 30 頭 + α (内 4Baby) をカウント。

◎ 8 月 9 日 晴れ

(脇野沢地区)

- ・面木沢林道を下面木沢出合まで車でパトロール。その後、国道 338 号線(海峡ライン)を車でパトロール。8:48 流汗台北でサルの群れと出会う。19 頭カウントしたが、まだまだいる模様。9:537 山側へ上るように移動。10:40 石碑より北でワカモノ♂1 頭を発見。ハナレザルの可能性大。10:43~11:30 石碑近くでオトナ♂1 頭を目視。8 月 8 日のオトナ♂と同じ特徴であり、同一個体と思われる。その後、11:39~12:30 流汗台南の道路標識板地点で 32 頭 + α (6Baby) をカウント。電波は取れない。02-A 群のその 1 かその 2 であるが、現状では不明。その後、川内地区の調査に行く。県道畑-牛滝線、県道川内-佐井線(カモシカライン)を車パトロール。カモシカラインでサルの群れと出会うが、すでに別の調査員がカウント済みとのこと。下小倉平まで車でパトロール。上小倉平集落北で安部城北の群れの電波は取れ

3~4歳			1	1
3歳		1		1
2歳		1	3	4
1歳		1		1
Baby			6	6
計	4	16	12	32

32頭+α (内6 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない

○ 不明群 (02-A2群または佐井の群れ)

・2025年8月7日 15:32~16:25

国道338号線(海峡ライン) アンド山東地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	9		10
ワカモノ	1			1
4歳	1			1
3~4歳			1	1
3歳		2		2
2歳	1	1		2
1歳		2		2
Baby			7	7
計	4	14	8	26

26頭+α (内7 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない

○ 02-B群

・2025年8月9日 13:40~13:42

国道338号線(海峡ライン) 武士泊林
道入口付近から北上

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	1		2
ワカモノ	1			1
3~4歳			2	2
2~3歳			1	1

Baby			1	1
計	2	1	4	7

7頭+α (内1 Baby)

※ 電波発信機装着個体なし

○ 男川B群

・2025年8月6日 13:21~14:45

男川林道 板家戸沢林道

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	6		8
ワカモノ	4			4
3~4歳			1	1
2~3歳			1	1
2歳			1	1
1~2歳			2	2
1歳			2	2
Baby			4	4
年齢不明			1	1
計	6	6	12	24

24頭+α (内4 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

○ 男川A群

・2025年8月6日 15:02~15:50

宿野部川林道 貯木場

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2			2
ワカモノ	1			1
2~3歳			1	1
年齢不明			1	1
計	3		2	5

5頭+α

※ 電波発信機装着個体はいない

【 川内地区 】

○ M2-B1 群

・2025年8月9日 9:10～10:29 県道川内-佐井線(カモシカライン) 湯野川開拓

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
2歳		1		1
1歳	1	1		2
Baby			5	5
計	2	8	5	28

15頭+α (内5 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

○ M2-B2 群

・2025年8月6日 11:00～13:11 県道川内-佐井線(カモシカライン)佐井村との境南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	8	9		17
ワカモノ			6	6
4歳			3	3
3～4歳			2	2
3歳			1	1
2～3歳			1	1
2歳			3	3
1歳			3	3
Baby			7	7
計	8	9	26	43

43頭+α (内7 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

※ M2-B3 群は2024年度の報告書でM2-B3 群その1とM2-B3 群その2としていたが、今回の調査でその1とその2の2群を確認することができなかったため、今年度の報告でもM2-B3 群その1とM2-B3 群その2とする。次年度の調査に委ねたい。

○ M2-B3群 その1

・2025年8月8日 15:04~16:00

県道川内-佐井線(カモシカライン)畑集落北
西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	7	1	12
ワカモノ			1	1
4歳			3	3
3歳			4	4
2歳			4	4
1歳			2	2
Baby			4	4
計	4	7	19	30

30頭+α (内4 Baby)

※ 大人メスに電波発信機(CH5)が装着されている

- M2-B3群は2024年度の報告書でM2-B3群その1とM2-B3群その2としていたが、今回の調査でその1とその2の2群を確認することができなかったため、今年度の報告でもM2-B3群その1とM2-B3群その2とする。次年度の調査に委ねたい。

○ 安部城北A群

・2025年8月6日 9:03~13:11

県道川内-佐井線(カモシカライン) 安部城沢付
近の道路を西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
ワカモノ	4			4
4~5歳			1	1
4歳		1		1
3~4歳	2			2
3歳	1			1
2歳	1	1		2
1歳		3		3
Baby	2		4	6

計	13	16	5	34
---	----	----	---	----

34頭+α (内6 Baby)

※ 大人メスに電波発信機(CH5)が装着されている

※ 大人オスに鼻すじが切れている個体がいる。

● 2025年夏季ニホンザル調査 所感

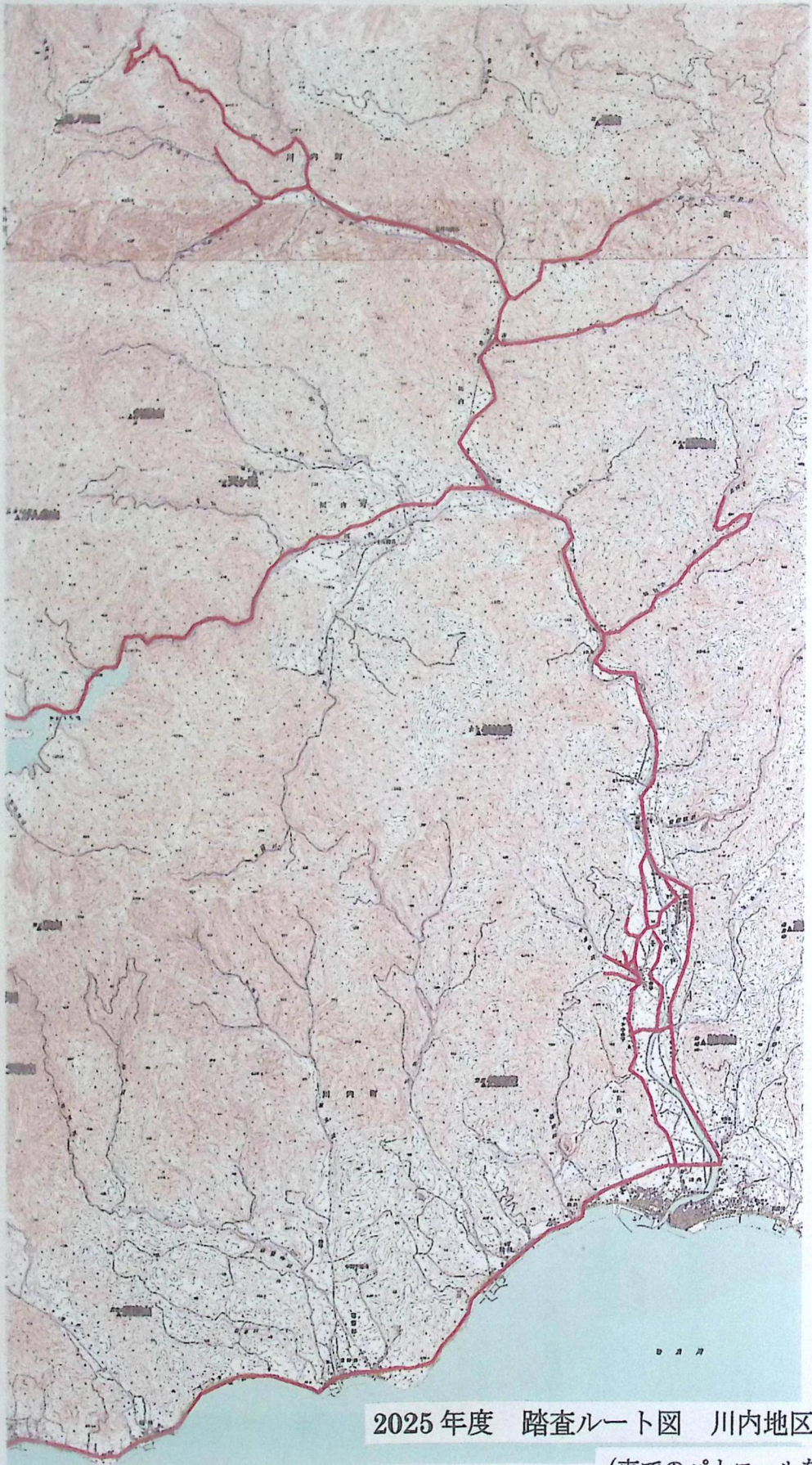
下北半島は、2025年7月中旬から猛暑となり下旬には気温が33℃となった日が続いた。夏季調査中は雨模様で暑さに関しては調査や生活に支障はなかった。植物の生育については猛暑が原因であったのかは不明だが、エビガライチゴは果実をつけなかったし、ブナは全く実をつけていなかった。サルナシ、ヤマブドウ、マタタビも不作、秋の実は大凶作の予兆だった。また、ミズナラはカシノナガキクイムシによるナラ枯れで多数のミズナラが枯れていた。比較的太く立派な大木に被害が及んでいた。被害地は九艘泊-芋田間、寄浪地区の集落背後の斜面といった海岸線に多く見られた。この被害が今後も続くようであれば、ミズナラの分布にも影響が出てくるだろうし、ミズナラに依存する生き物たちにも影響するものと思われる。

昨秋のブナの実りが大豊作だったことが影響しているのか、アカネズミやヒメネズミといった山のネズミを見る機会が多くあり、個体数が増加していることが示唆された。アナグマも頻繁に観察することが多く、2~4頭の親子づれなどを頻繁に目撃した。ヤマドリも家族も林道を車で通過時に頻繁に目撃された。

サルに関しては、脇野沢地区の斎場周辺、スキー場入口、田頭林道入口付近、山の神社周辺のソバ畑にA87-A群、O1-A1群、O1-A2群の3群が執着、長期間確認した。また、川内地区でも畑集落でM2-B3群が執着し調査期間中、連日確認した。この一定場所への終着も猛暑が原因で山の実りが少ないことが原因とも推測できるが、今後の継続調査で明らかにしたい。

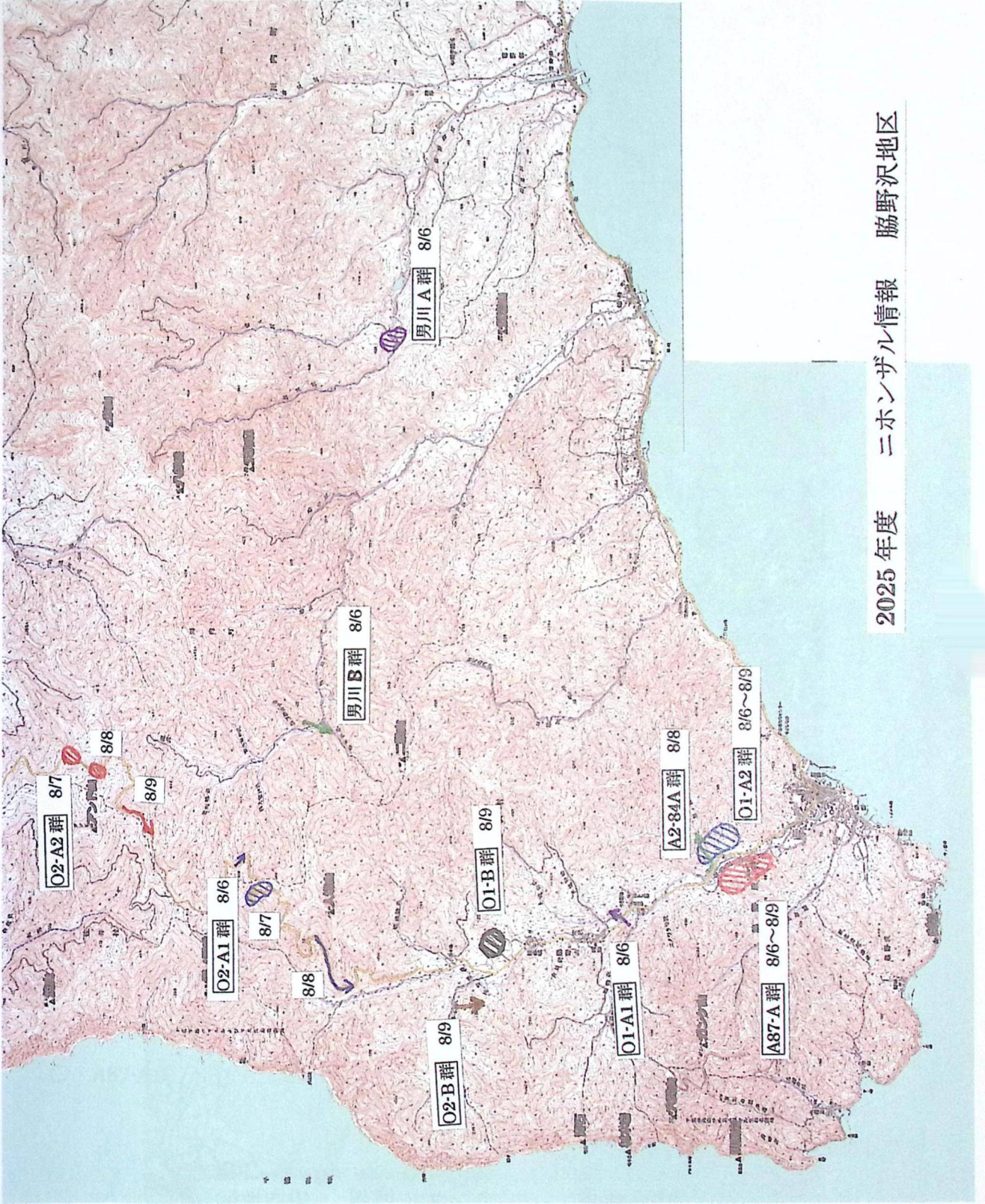


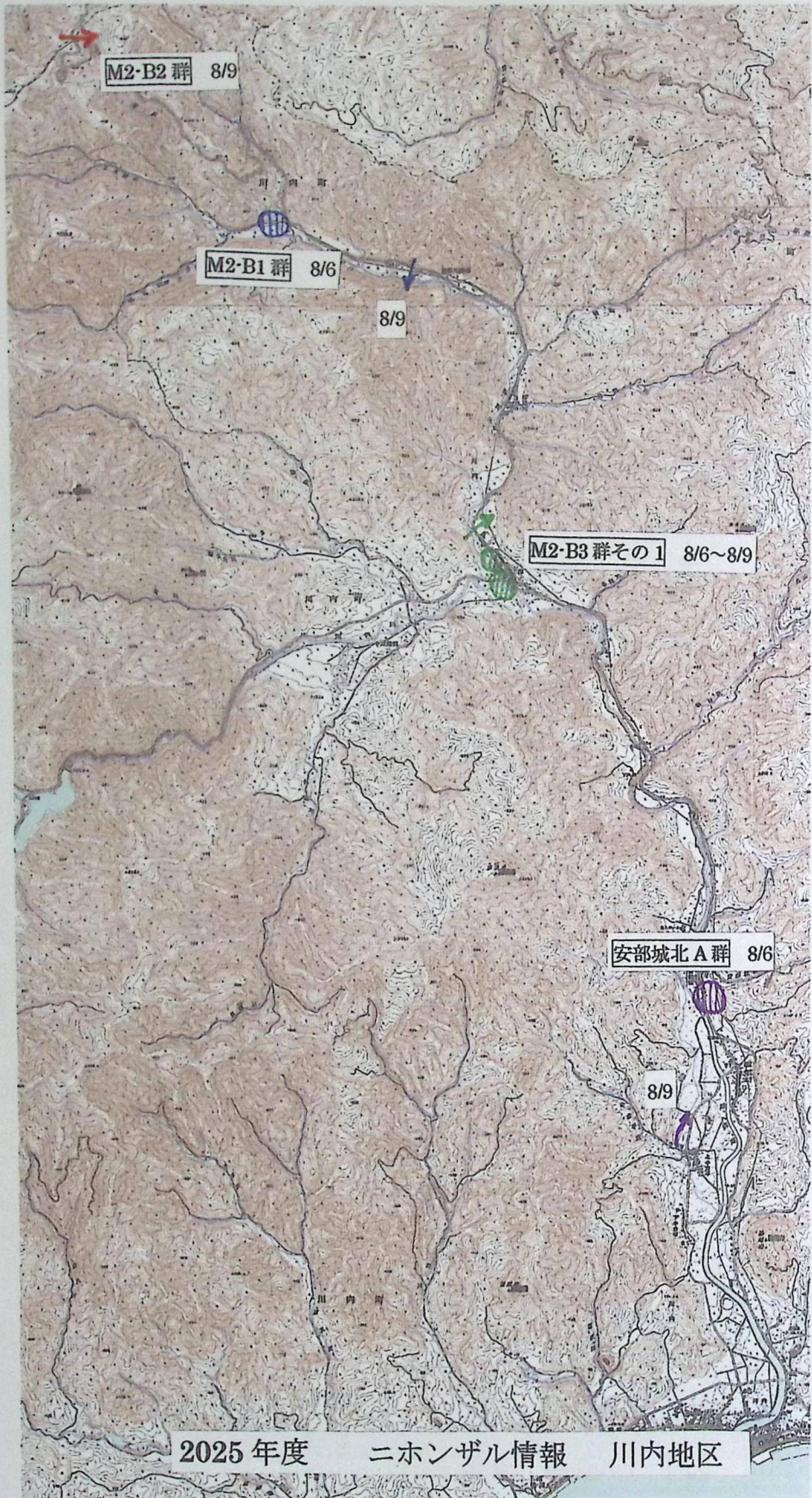
2025年度 踏査ルート図 脇野沢地区 (車でのパトロールを含む)



2025年度 踏査ルート図 川内地区

(車でのパトロールを含む)





3. 通年調査 (秋季)

○ A2-84B 群

・2025-11-26 14:30~15:20

瀬野黒岩 ソバ収穫後

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	2		3
ワカモノ		1		1
3~4 歳			1	1
Baby	1			1
計	2	3	1	6

6 頭 + α (内 1 Baby)

※ 若者メスに電波発信機が装着されている

○ A2-85 群

・2025-11-25 14:20~14:30

口広沢出合い 国道 338 号線を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	6		9
ワカモノ	1	2		3
4~5 歳	1			1
3~4 歳		2	1	3
2~3 歳		2		2
2 歳			1	1
1 歳			2	2
Baby			3	3
計	5	12	7	24

24 頭 + α (内 3 Baby)

※ 電波発信機を装着している大人メスが 2 頭はいるが発信していない

○ A87-A 群 SB1 2025-12-18

寄浪地区集落

36 頭 + α (内 6Baby)

オトナオス「メンコ」 オトナメス「トチ」 オトナメス発信して
ない電波発信機装着個体

○ A87-A群 SB2 2025-12-19

瀬野黒岩 ソバ収穫後畑

30頭+α(内6Baby)

大人オス「ユビもどき」 大人メス電波発信機装着個体

※A87-A群がサブグループピングしていた。その後、合流する

4. 2025年度 冬季ニホンザル生息調査 (大畑・薬研地区)

4-1 調査の概要

2025年12月21日から12月25日までの5日間、それに調査移動日の20日と26日の前後2日間を含めた7日間、12名の調査員で、大畑川流域に生息するニホンザルの生息実態調査を実施した。

積雪の状況は、国道279号線には全くなく、県道大畑-佐井線は場所によっては10センチ程度、ほとんどの区間が道路の両脇に除雪で寄せられた程度、不思議なことに高度の高い佐井村との境辺りは全く積雪がなかった。林道は雪が残っているところと全面雪がついているところに大別され、雪があっても10センチ程度であった。かんじきの使用は必要なかった。調査期間中、伐採作業等で入山する車や人もいなかった。

調査期間中、21日が一日中降雨、22日は降雪があったものの穏やかな天候、23日は早朝冷えていたが日中は風もなく穏やかな日、24日どんよりとした曇り、ただ風はなく穏やか、25日は曇りのち雨、風はなかった。

秋の実りは、ブナ、ミズナラ、クリ、サルナシ、ヤマブドウ、ガマズミなど、サルの食べ物となる実りは大凶作で、すでにヤマグワの激しい食痕が林道際で確認できた。ブナの凶作はサルにとっても大打撃だったがクマにとっても厳しい秋となり、全国でクマの出没で人との接触があり、社会問題化していた。

4-2 調査日、ならびに各パーティごとの調査結果

◎12月20日 (下見) 曇り

- ・国道279号線と大畑-佐井線を車で下見、積雪の状況と林道の通行可能かどうかを下見する。林道沿いのヤマグワに激しい食痕が見られる地点が多くあった。
- ・12:25~13:05 木野部峠の国道279号線のハーモニー橋北100m地点で東から西へ道路を横断する14頭+α(1Baby)をカウント。すでに渡っているサルもいたと思われ、フルカウントではない。電波は取れなかった。

◎12月21日 一日中雨

- ・上狄沢林道を踏査。中流部の分岐で 17 頭分(大 10、中 4、小 3)の足跡。北から南へ横断する今日のもの。上流部の分岐で今日の 1 頭分の足跡。北西から南東へ向かう。
- ・仁部沢林道、長次郎沢林道、新右衛門沢林道、三太郎沢林道三つ又分岐までを踏査と車でパトロール。仁部沢入口より 500m 地点で昨日ぐらいの足跡 1 頭分、下流へ向かっていた。
- ・重兵衛沢林道を踏査、サル情報はなし。帰路、15:00~15:25 高橋川集落東で県道を南から北へ横断する 14 頭(1Baby)+ α を目撃。群れの同定は不明だが電波はとれなかった。
- ・階子沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・調査地に向かう途中、9:26 烏沢出会いと三太郎沢林道出会いの中間地点付近で 4 頭(大人♀2、Y 不明 1、不明 1)を目視。足跡は 7 頭分が沢側から山側へ、2 頭分が山側から沢側へ移動する数分前の足跡。その後、三太郎沢林道出会いより東 100m 地点を山側から沢側へ向かう 5 頭分の足跡を確認する。その後、囲沢林道の右股と左股を踏査。右股の分岐より 2 km 地点で 5 筋の北へ向かう足跡、その少し先で複数頭が道路上を行き来する足跡、1 本の筋が南へ向かう足跡。すべて 2~3 日前のもの。左股の林道ではサル情報なし。
- ・調査に向かう途中、8:45~9:03 木野部峠国道 279 号線北見台付近で 10 頭+ α (1Baby)を目撃、前日の 14 頭+ α の群れと同一群と思われる。その後、弥一郎沢林道と佐井村との境まで、仁助沢林道を踏査と車でパトロール。弥一郎沢林道でイワガラミの食痕があった。それ以外のサル情報はなかった。

◎12月22日 曇り一時小雪

- ・囲沢林道を右股と左股林道を踏査。左股ではサル情報はなかった。右股で林道の鞍部周辺で 14 頭+ α (大きめの足跡だけ残っている) 西から東へ移動する足跡を確認する。21 日に確認したこの地点より下流部の 5 筋の足跡のもと同一群、21 日のものよりも新しいが 2~3 日ぐらい前のもの。その後、佐井-薬研線の「薬研まで 11 ㌔」標示版地点で 13:10~14:07 42 頭+ α (3Baby)をカウント。谷側から山側へ移動した。14:35~14:45 佐井-薬研線のゲートより 1.5 km 地点で 8 頭+ α (1Baby)を目視。道路際にいて右岸斜面へ登るように逃げ去った。
- ・上・下近藤沢林道を踏査。下近藤沢林道の送電線やや上流部で東から西へ移動する 11 頭分の足跡。その後、上近藤沢林道で 11 頭分の足跡の延長と思われる 14 頭分の足跡を確認。仁部沢方向へ移動していた。
- ・三太郎沢林道奥三叉路右股林道を踏査。林道終点付近で 11:14 サル 6 頭 を目視(大人オス 1、親子 1 組)。三戸橋から入る林道の踏査ではサル情報なし。その後、新右衛門林道を車でパトロール。林道終点付近で昨日の足跡を発見。北西方向へ 2 頭(大 1、中 1)、南東方向へ 4 頭(大 1、中 3)分を確認する。
- ・三太郎沢林道の一つ目の左股、その奥分岐の左股を踏査したが、サル情報はなかった。
- ・大畑-川内線の上狄沢林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・大畑-川内線 重兵衛沢林道を踏査。中流部で林道の谷側で数頭(5 頭ぐらいか)の足跡。

林道を 100m ほど移動していた。ただ、移動の方向は不明。

- ・佐井一大畑線を市町村境まで車でパトロール。その後、右衛門四郎沢林道を踏査、右岸斜面を登り佐井一大畑線に降りる。その後、仁助沢林道を踏査。サル情報はなし。
- ・佐井一大畑線 弥一郎沢林道を踏査。桂平 531P 南東の林道上にイワガラミの食痕。

◎12月23日 曇り

- ・佐井一大畑線の佐井村境まで、雨量観測施設近くから伸びる林道、仁助林道を車でパトロールと踏査。サルのフン、食痕はあったもののサルの群れの情報はなかった。
- ・上近藤沢の送電線やや南から左に入る林道を踏査。昨日の情報以外のサル情報はなかった。
- ・鳥沢林道と二階滝沢林道を踏査。二階滝沢林道で西から東へ移動する 3 日ぐらい前の 18 頭 + α の足跡。また、二階滝沢分岐より北上する林道で今日の足跡 1 頭分(大きい足跡)と 4 日以上前の 11 頭 + α の南下する足跡。また、鳥沢林道で今日の足跡 1 頭分(大きい)を確認。ヤマグワやイワガラミの食痕を確認した。
- ・三太郎沢林道の奥の分岐から分かれる 3 本の林道を踏査。その後、佐井一大畑線の佐井村境までを車でパトロール。三太郎沢奥の左股の林道で昨日確認された群れと同一の群れの 2 頭分の足跡、山側から谷側へ下りるかなり大きめの足跡を確認したが、それ以上のサル情報はなかった。
- ・小西股沢林道を大石八森分岐までと大西股沢林道を車でパトロールと踏査。古い 1~3 頭分の足跡を確認、また、コシアブラ、サルナシの食痕を確認したが、新しい群れの情報は得られなかった。
- ・薬研キャンプ場から北上する林道を佐藤平林道との分岐、その後、大西股沢林道を踏査。キャンプ場と佐藤平林道との分岐までの中間地点付近標高 360m で今日の足跡 9 頭 + α (大 5、中 1、小 3)、その足跡の延長と思われる 18 頭 + α (大 10、中 5、小 3)を佐藤平林道との分岐付近で確認。林道を横断し西へ移動していた。
- ・釜の沢林道、小西股沢林道、湯の股沢林道を車でパトロール。釜の沢林道で足跡の情報を得たが報告は別の調査員の報告を参照。それ以外のサル情報はなかった。
- ・釜の沢林道を車でパトロール、ウグイ滝沢林道を踏査。釜の沢林道の入口より 2 km 付近で東から西へ林道を横断する 10 頭 + α (大 5、中 2) 2 日ほど前のものを確認。ウグイ滝沢林道でイワガラミ、コシアブラの食痕が林道に散在していた。

◎12月24日 曇り

- ・調査地へ向かう途中、国道 279 号線旧二枚橋小学校西の新道のり面で 8:47~9:25 東から西へ移動する 22 頭 + α (3Baby)を目視。道路両側ののり面でヤマハギの樹皮食いを観察。その後、高橋川集落近くの薬研へ向かう県道で 9:35~10:10 県道の南側林でヤマグワを採食する 11 頭 + α (4Baby)を目視。このサルの群れの詳細は別の調査員の報告を参

照。その後、ウグイ滝沢林道と湯の股沢林道を踏査。ウグイ滝沢林道の複数個所で食痕あり。すでに報告済み。湯の股沢林道で分岐よりも2 kmあたりで古い6頭分の足跡。サルナシ、イワガラミ、コシアブラの食痕あり。

- ・小目名沢林道の材木沢の出合いで9:13~10:50南から北へ移動する60頭+ α (4Baby)をカウント。電波は取れず。その後、佐藤ヶ平林道を東側(海側)から車でパトロールと踏査。高橋川と葉色沢間の尾根を佐藤ヶ平林道から踏査、2日前と思われる8頭分(大6、中2)そこから南で前日ぐらいの7頭分(大1、中4、小2)の足跡。
- ・曾古部川林道と昼飯場沢林道を踏査。オオバコの根、イネ科の茎の食痕を確認、薬研橋に古いフンを多数確認。それ以外サルの群れの情報はなかった。その後、14:33~14:50高橋川集落の西側で県道を南から北へ渡る23頭+ α (4Baby)をカウント。午前中に11頭確認していた群れ。
- ・高橋川林道を踏査。サル情報はなかった。
- ・釜の沢林道を車でパトロールと踏査。13:56ゲートより南1 km付近の東側斜面で警戒音。おそらく群れがいたものと推測されるが、サルの目視はなかった。
- ・薬研のキャンプ場から北上し佐藤ヶ平林道の東側(海側)を踏査。葉色沢上流部の左股が林道と交差する地点で北から南へ移動する13頭分の足跡。昨日か2日前のもの。
- ・薬研キャンプ場から佐藤ヶ平林道へ続く林道を北上、分岐を大西股林道へ踏査。サル情報はなかった。
- ・小西股林道の佐藤ヶ平林道との分岐までを車でパトロール。その後、大西股林道をキャンプ場から北上する林道との分岐点までを踏査。その後、奥薬研のゲート近くの赤い橋まで踏査で往復。佐藤ヶ平林道との分岐でヤマグワの食痕を確認したが、それ以外のサル情報はなかった。
- ・小西股林道を易国間との境までを踏査。林道上にヤマグワ、イワガラミの食痕はあったが、それ以外のサル情報はなかった。

◎12月25日 曇りのち雨

- ・奥薬研のゲートから佐井一大畑線の川内方面への分岐までを車でパトロールと踏査。鳥沢で多数の食痕を確認したが、サルの目撃はなかった。
- ・釜の沢林道をP532.8の北までを踏査。サル情報はなかった。
- ・小目名沢林道の材木沢周辺を踏査。サルの声、一声を聞くがそれ以外の情報は得られなかった。
- ・小西股林道を易国間との境辺りまでを踏査。古い食痕を確認したが、すでに報告済みのもの。帰路、14:40国道279号線新道の釣屋浜集落近くののり面にいる大人メス1頭を目撃、奥の林内で鳴き声は聞こえるが1頭以外目視なし。
- ・鳥沢林道と二階滝沢林道を踏査。二階滝沢林道で古いフンや食痕、新しい食痕と新旧入り乱れて確認。鳥沢林道の東、大畑川左岸の見通しの悪い広場に新しい食痕があったが、

サルの群れの目視はなかった。

- ・上近藤沢林道、下近藤沢林道をともに送電線よりも上流までを踏査したが、サル情報はなかった。
- ・三太郎沢林道の奥の三つ又の左股林道と真ん中の林道を踏査。サル情報はなかった。その後、佐井一大畑線の太兵衛川林道入口までを車でパトロール。サル情報はなかった。
- ・新右衛門沢林道と下獅子沢林道を踏査。11:16 新右衛門沢林道の入口近くの右岸からサルの声を聴く。ただ、サルを目視はなかった。下獅子沢林道では古いマタタビ、ヤマグワの食痕を確認したが、それ以外のサル情報はなかった。帰路、15:00~15:15 小目名集落の西の端で8頭+ α を目視、電波は取れなかった。調査中、高橋川集落で観察していた群れと同一。
- ・湯の股沢林道とその支沢の千穂沢と兵次郎沢を踏査。古い足跡と食痕を確認したが、すでに報告済み。

◎12月26日 曇り一時晴れ 調査終了移動日

- ・奥薬研のゲートまでを車でパトロール。9:25~10:15 小目名集落西の県道ののり面上部でグルーミングする8頭+ α を目視。調査中、高橋川集落で23頭+ α をカウントした群れと同一。

※2025年冬季ニホンザル生息調査 所感

2025年の冬季調査における特記事項として、まず調査期間中積雪が少なかったこと。それに降雪ではなくて初日並びに最終日が降雨という気象条件であった。道路の積雪状況は、大畑-佐井線には全く雪がなく、路肩に残る程度、サルの足跡は日陰となるスギ林など場所によっては残る程度で、足跡を確認できる場所と出来ない場所があった。幹線から外れた各沢の林道は5cm程度から10、20cmと林道を奥に進むにつれ積雪があり、沢の奥までは車で入山はできなかった。各沢の林道では足跡によるサルの確認は可能な状態であった。また、釜の沢林道は積雪量が少なく、かなり上流部標高の高い地点まで車で入ることができた。佐藤ヶ平林道は全線車で通行が可能であったが、伐採作業をしていたため車で全線の通行はできなかったが踏査は可能だった。道路並びに林道の通行がかなり奥まで車で入山できたことで踏査範囲が広がった。

道路沿いのヤマグワのサルの食痕が小目名集落など各集落でかなり激しく食われていた。これまでの調査で、この時期としては珍しいほどの食痕であった。また、同様に各集落近くのクリに多数のクマ棚を確認。2025年の全国的なクマ出没の多さが大畑地区でも顕著にみられた。

奥薬研のゲートより西、奥のサルの群れについては、ここ数年烏沢から三太郎沢の間の大畑-佐井線で比較的個体数が多い群れを確認していたが、今回は烏沢周辺で20数頭の足跡によ

る確認と7頭のサルの目視があり、それぞれ少し距離がある場所での確認であったため、分派、分裂していることが推測された。ただ、烏沢で確認した足跡が新旧あり連日大畑川左岸にいたとも推測できる。この辺については来年の課題としたい。また、上狄沢林道、大畑-佐井線の雨量観測小屋より西、困沢林道の右股奥で、それぞれ1群の確認を得た。

佐藤ヶ平林道、小西股林道については、目視はできなかったが、足跡による確認で2群を確認、ただ、釜の沢林道、ウグイ滝林道、湯の股沢林道では1~2頭ぐらいの足跡や少数の足跡を確認したが、サルの群れの目視はできなかった。

小目名集落周辺では、14頭+ α の群れと60頭+ α の群れの2群を目視、佐藤ヶ平林道で足跡による確認の群れとの関連を考慮した群れ名を確定したい。

木野部峠周辺では、22頭+ α の群れを目視している。

4-3 冬季ニホンザル生息調査中に確認した群れの結果

調査期間中、確認した個体数、観察場所、足跡情報、鳴き声、1~2頭のハナレザルの情報、電波発信機の受信状況などを精査し、これまでの調査結果を元とし、また、大畑町の野猿監視員からの情報を加味して、冬季期間中の群れの結果とする。

【 ゲート東側 大畑川下流部 】

○ I2-A1群 (キノップA群)

・2025年12月24日 8:47~9:25 国道279号線新道 旧二枚橋小学校西ののり面

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	9		12
ワカモノ		1		1
3~4歳	1	1		2
2歳		2		2
1歳		1	1	2
Baby	1		2	3
計	5	14	3	22

22頭+ α (内3 Baby)

※ 大畑町の野猿監視員の情報では2025年12月10日に風間浦で捕獲し電波発信機を装着しているとのこと。テレメの確認をしなかった。

※ 鼻先が欠けている老メスがいた。

○ I2-A2 群 (キノップ B 群)

・ 2025 年 12 月 20 日 12:25~13:05

国道 279 号線 ハーモニー橋北 100m 地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		2	1	3
3~4 歳			3	3
2 歳			1	1
Baby			1	1
計	1	7	6	14

14 頭 + α (内 1 Baby)

○ I2-C 群

調査期間中、確認できなかった。ただし、佐藤ヶ平林道で確認した少数の足跡がこの群れのものの可能性があるが、確証は得られない。

○ Ka 群

・ 2025 年 12 月 25 日

釜の沢林道 入口より 2 km 入った地点 東から西へ林道を横断した足跡

10 頭 + α 【足跡】

(大 5、中 2) ただし大 5 のうち 3 は 2 頭以上の足跡

○ Ko-A1 群 (イロハ A 群)

・ 2025 年 12 月 24 日 9:13~10:50

小目名沢林道の小目名沢と材木沢の合流地点を南から北へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	7	18	3	28
ワカモノ			9	9
3 歳			4	4
2 歳			8	8
1 歳			7	7
Baby			4	4
計	7	18	35	60

60頭+α (内4 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない。

○ Ko-A2-a 群 (イロハ B1 群)

調査期間中、確認できなかった。大畑町の野猿監視員からの情報によると、調査期間中、高梨地区、新田地区周辺にいたとのこと。70頭から90頭ぐらいの大きな群れで電波発信機が装着されている。

○ Ko-A2-b 群 (イロハ B2 群)

調査期間中、確認できなかった。大畑町の野猿監視員からの情報によると、調査期間中、国道279号線のヤマト宅急便の集配所周辺にいたとのこと。30頭ぐらいの群れで電波発信機が装着されている。

○ Ko-B1 群 (ハイロ A 群)

・2025年12月23日

佐藤ヶ平林道の薬研野営場から北上した林道との出
会い付近を東から西へ移動する本日分の足跡

18頭+α【足跡】

(大10、中5、小3)

○ Ko-B2 群 (ハイロ B 群)

・2025年12月21日 15:00~15:25

高橋川集落周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ			1	1
3~4歳			2	2
3歳			1	1
2~3歳			1	1
2歳			1	1
1歳			1	1
Baby			1	1
計	1	5	8	14

14頭+α (内1 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない。

※ 鼻の右側が欠けている老メスがいる

【 ゲート東側 大畑川下流部 】

○ I3-A 群

I3-A 群は 2024 年 12 月 23 日の観察で 74 頭 + α を確認している。今回、前回の個体数を数えることがなかった。分派、分裂していることもあり、I3-A 群関連と推測できるサルの情報

● I3-A 群 その 1

・ 2025 年 12 月 23 日 近藤沢と烏沢との間、二階滝沢林道を西から東へ移動する足跡
18 頭 + α 【足跡】

● I3-A 群 その 2

・ 2025 年 12 月 22 日 14:35~14:45 奥薬研ゲートより西 1.5 km 地点 大畑川
左岸斜面
8 頭 + α (内 1Baby)

● I3-A 群 その 3

・ 2025 年 12 月 22 日 新右衛門沢林道の終点地点 南東方向並びに北西方向へ移動する足跡
6 頭 + α 【足跡】
(大 1、中 3 と 大 1、中 1)

○ M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)

・ 2025 年 12 月 22 日 13:19~14:07 大畑-佐井線 「薬研まで 11 km」看板地点
《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	5	12		17
ワカモノ	4	4	1	9
4~5 歳	1			1
3~4 歳		2	1	3
3 歳			2	2
2~3 歳		1		1
2 歳		1	2	3
1 歳			3	3

Baby			3	3
計	10	20	12	42

42頭+α (内 3Baby)

※ 電波発信機は装着されていない。

○ M2-A2 群 (上狄沢の群れ)

・2025年12月21日 上狄沢林道の最初の分岐 北から南へ林道を横断する足跡
17頭+α【足跡】
(大10、中4、小3)

○ M2-A3 群 (囿沢の群れ)

・2025年12月22日 囿沢林道右股、鞍部地点で西から東へ林道を横断する足跡
24頭+α【足跡】

○ M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)

・2025年12月22日 11:14~12:20 三太郎沢奥の三又の右股の沢の最深部

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	1		2
ワカモノ			1	1
3歳			1	1
2歳			1	1
Baby			1	1
計	1	1	4	6

6頭+α (内 1 Baby)

○ S1-A 群 (新田 A 群)

調査を実施しなかった

○ S1-B 群 (新田 B 群)

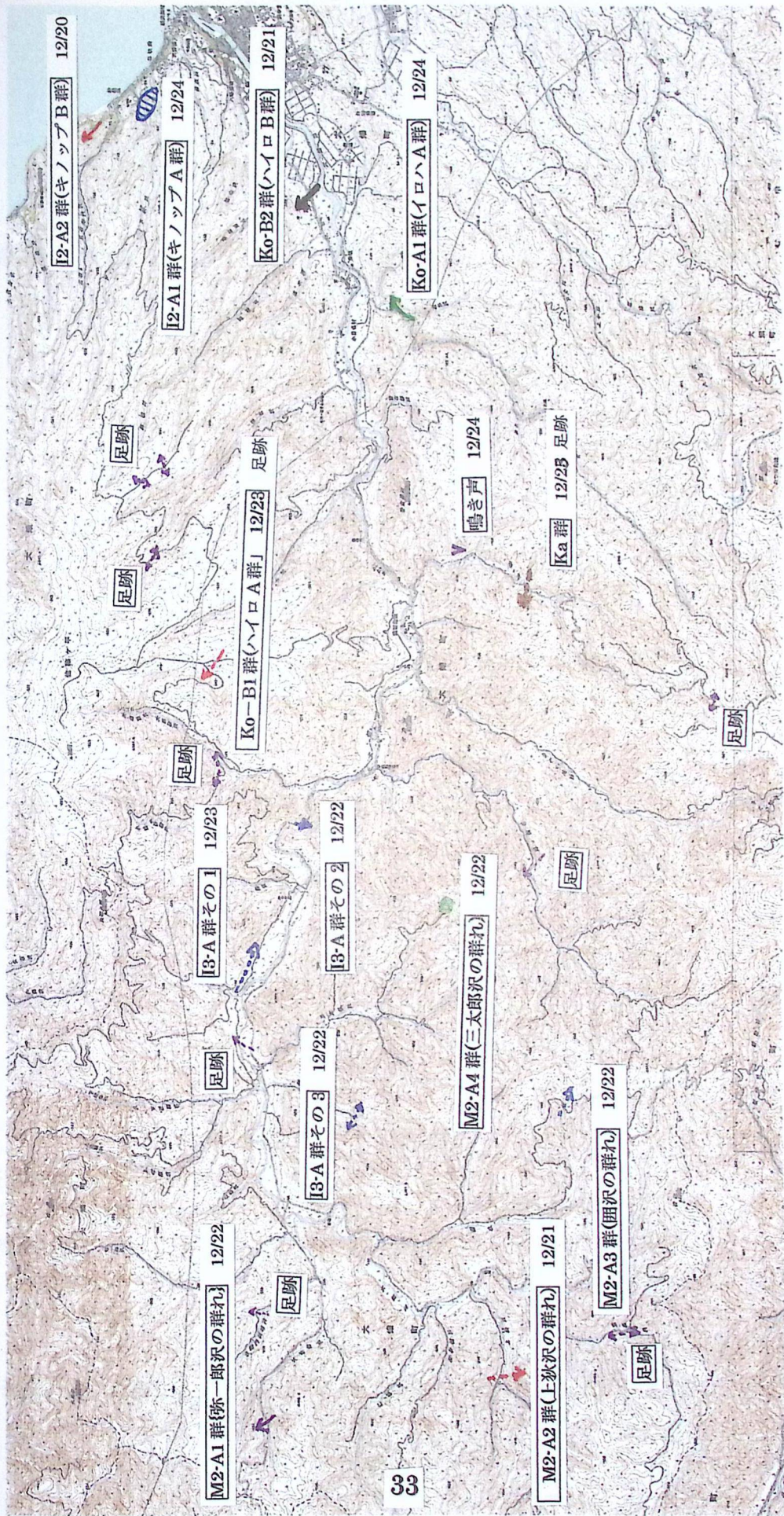
調査を実施しなかった

○ S2 群 (恐山の群れ)

・2025年12月24日 釜の沢林道最上部
食痕、サルが通った跡がすじとなっているフィールドサインで確認



2025年度 踏査ルート図 薬研・大畑地区 (車でのパトロールを含む)



2025 年度 ニホンザル情報 大畑・薬研地区

5. 補足調査 (冬季)

○ A2-84A 群

・2026年3月18日

12:10~12:30

瀬野黒岩ソバ休耕地

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	7		8
ワカモノ	3			3
3~4歳		1	2	3
2歳	1		2	3
1歳	1		1	2
Baby			8	8
計	6	8	13	27

27頭(内8Baby)

※ 電波発信機は大人オス(黄色)とやや若めの大人メス(黄色)についている。発信していない電波発信機を装着していた老メスは捕獲された。

● A87-A 群 その1

・2026年2月22日

11:05~12:00

瀬野黒岩ソバ休耕地

東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	23		26
ワカモノ		2		2
3~4歳		1	2	3
2~3歳			3	3
1~2歳		1	10	11
Baby			9	9
計	3	27	24	54

54頭(内9Baby)

※ 電波発信機装着した大人メス、発信していない電波発信機装着大人メス、大人オス「メンコ」、大人メス「シドケ」、大人メス「トチ」「トチネエ」などを確認

● A87-A 群 その2

・2026年2月22日

9:00~9:20

芋田集落を西から東へ横断移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	10		11
ワカモノ	1	1		2
3～4歳		1		1
2～3歳			1	1
1～2歳			1	1
Baby			2	2
計	2	12	4	18

18頭(内2Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない。大人オス「ユビ」、大人メス「タラ」を確認

A87A群は2026年2月8日からサブグループリングしていて、2026年2月28日に合流した。

○ A87-A群

・2026年3月16日

9:40～10:50

瀬野黒岩ソバ休耕地

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	26		29
ワカモノ	5	3		8
4～5歳	2			2
3～4歳	2	1	1	4
2～3歳	1	3	7	11
1～2歳	2		4	6
Baby			12	12
計	15	33	24	72

72頭(内12Baby)

※ 発信機装着個体は大人メス(CH5)と大人メス(CH3)の2頭。発信していない電波発信機装着個体大人メスがいる。

○ A2-84B群

・2026年3月2日

白岩 海岸線のコンクリートの壁

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
--	---	---	-----	---

オトナ	1	1		2
ワカモノ		1		1
3～4歳	1			1
計	2	2		4

4頭

※大人メスに装着している電波発信機(青色)は発信していない。若者メスに装着している発信機が電波を発信している

○ M2-B2 群

・2026年3月25日 14:20～14:55

川内-佐井線カモシカライン スノーシェイドと町村境との間

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	4		5
ワカモノ	1			1
3～4歳			2	2
2～3歳			3	3
1～2歳			2	2
Baby			5	5
不明			27	27
計	2	4	39	24

45頭(内5Baby)【目視・足跡】

※ 年齢・性不明が27頭と多いのは、カウント開始時点ですでに道路を横断していたものを足跡で確認したため。

※ 電波発信機は装着されていない

○ Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)

・2026年3月10日 10:25～11:05

大畑町運動公園を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	10		11
ワカモノ	1	1		2
2歳			2	2
1歳			3	3

Baby			6	6
計	2	11	11	24

24頭(内6Baby)

※大人メス1頭(黄色テープ)に電波発信機が装着されている

○ Ka群

・2026年3月10日 11:20~11:45

大畑-佐井線 紅葉橋周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	12	3	16
ワカモノ	2	1		3
4~5歳	1			1
3~4歳			1	1
2~3歳			5	5
1歳			3	3
Baby			5	5
計	4	13	17	34

34頭(内5Baby)

6. 2025年度 各群れごとの結果

【 脇野沢地区 】

◎ A2-84A群

・2026年3月18日

12:10~12:30

瀬野黒岩ソバ休耕地

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	7		8
ワカモノ	3			3
3~4歳		1	2	3
2歳	1		2	3
1歳	1		1	2
Baby			8	8
計	6	8	13	27

27頭(内8Baby)

※ 電波発信機は大人オス(黄色)とやや若めの大人メス(黄色)についている。発信していない電波発信機を装着していた老メスは捕獲された。

※ カウントした日時以降 1 歳から 3 歳までのサル 3 頭が捕獲された。2026 年 3 月末時点で 24 頭となっている。

◎ A2-84B 群

・ 2026 年 3 月 2 日

白岩 海岸線のコンクリートの壁

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	1		2
ワカモノ		1		1
3~4 歳	1			1
計	2	2		4

4 頭

※大人メスに装着している電波発信機(青色)は発信していない。若者メスに装着している発信機が電波を発信している

◎ A2-85 群

・ 2025-11-25 14:20~14:30

口広沢出合い 国道 338 号線を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	6		9
ワカモノ	1	2		3
4~5 歳	1			1
3~4 歳		2	1	3
2~3 歳		2		2
2 歳			1	1
1 歳			2	2
Baby			3	3
計	5	12	7	24

24 頭 + α (内 3 Baby)

※ 電波発信機を装着している大人メスが 2 頭はいるが発信していない

◎ A87-A 群

・ 2026 年 3 月 16 日

9:40~10:50

瀬野黒岩ソバ休耕地

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	26		29
ワカモノ	5	3		8
4～5歳	2			2
3～4歳	2	1	1	4
2～3歳	1	3	7	11
1～2歳	2		4	6
Baby			12	12
計	15	33	24	72

72頭(内 12Baby)

※ 発信機装着個体は大人メス(CH5)と大人メス(CH3)の2頭。発信していない電波発信機装着個体大人メスがいます。

※ カウント日時以降、Baby2頭が捕獲された。

◎ A87-B群

・2025年6月30日 13:55～14:40

九艘泊集落を西から東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	5	15	2	22
ワカモノ	3	1	1	5
3～4歳			3	3
2～3歳			7	7
1～2歳			4	4
1歳			3	3
Baby			12	12
計	8	16	32	56

56頭(内 12Baby)

※ 電波発信機装着個体は若者メス(CH1)、電波を発信していない発信機装着個体大人メス((CH3 緑色ベルト)がいます。

◎ 01-A1群

・2025年8月6日 10:27～10:52

滝山橋を西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計

オトナ	3	11		14
5～6歳	1			1
4～5歳	1			1
2～3歳			5	5
2歳			1	1
1～2歳			2	2
Baby			9	9
計	5	11	17	33

33頭(内9 Baby)

※大人メス3頭に電波発信機が装着されている。ただし1頭の電波発信機は電波を発信していない

◎ 01-A2群

・2025年7月11日 9:40～11:35

七引橋東 脇野沢川を横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	17		20
ワカモノ	5	5	1	11
4～5歳	2			2
3～4歳	1	3	5	9
2～3歳	1	1	5	7
1～2歳	1		4	5
Baby			16	16
計	13	26	31	70

70頭+α(内16Baby)

※ 電波発信機装着個体の大人老メス(CH1 赤ベルト)は確認がとれなくなっている。おそらく死亡。電波発信機装着個体大人メスがいる。

◎ 01-B群

・2025年8月4日 9:45～11:20 源藤城集落北 国道338号線を東から西へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	10	1	14
ワカモノ	5	2	2	9
3～4歳			3	3

2歳			1	1
1~2歳			1	1
1歳			3	3
Baby			8	8
計	8	12	19	39

39頭+α (内8Baby)

※電波発信機装着個体は大人メス (CH2 黄緑色ベルト)。

◎ O2-A1群

・2025年6月28日 10:05~10:45 国道338号線(海峡ライン)M字カーブ
 << 構成 >>

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	10		12
ワカモノ	1		1	2
3~4歳		1	2	3
2~3歳			1	1
2歳	1			1
1歳	1	1	2	4
Baby			7	7
年齢不明			1	1
計	5	12	14	31

31頭+α (内7Baby)

※ 電波発信機装着している個体はいない。

◎ O2-A2群

・2025年8月9日 11:39~12:30 国道338号線(海峡ライン) 流汗台南
 << 構成 >>

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
ワカモノ	1	1	2	4
4~5歳		1		1
3~4歳			1	1
3歳		1		1
2歳		1	3	4
1歳		1		1

Baby			6	6
計	4	16	12	32

32頭+α (内6 Baby)

※ 電波発信機は装着されていない

◎ O2-B群

・2025年7月24日 9:45~10:25 国道338号線(海峡ライン) 旧イノシシ飼育場北

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	17		21
ワカモノ	3	4		7
4歳			1	1
3~4歳	1	1	5	7
2~3歳	1	1	2	4
1~2歳		2	2	4
Baby			9	9
計	9	25	19	53

53頭+α (内9Baby)

※電波発信機装着個体は大人老メス (CH4 青色ベルト)。

◎ 男川A群

・2025年8月6日 15:02~15:50

宿野部川林道 貯木場

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2			2
ワカモノ	1			1
2~3歳			1	1
年齢不明			1	1
計	3		2	5

5頭+α

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ 男川B群

・2025年8月6日 13:21~14:45

男川林道 板家戸沢林道

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	6		8
ワカモノ	4			4
3～4歳			1	1
2～3歳			1	1
2歳			1	1
1～2歳			2	2
1歳			2	2
Baby			4	4
年齢不明			1	1
計	6	6	12	24

24頭+α (内4 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

【 川内地区 】

◎ M2-B1 群

・2025年8月9日 9:10～10:29 県道川内-佐井線(カモシカライン) 湯野川開拓

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
2歳		1		1
1歳	1	1		2
Baby			5	5
計	2	8	5	28

15頭+α (内5 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ M2-B2 群

・2025年8月6日 11:00～13:11 県道川内-佐井線(カモシカライン) 佐井村との境南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	8	9		17
ワカモノ			6	6

4歳			3	3
3～4歳			2	2
3歳			1	1
2～3歳			1	1
2歳			3	3
1歳			3	3
Baby			7	7
計	8	9	26	43

43頭+α (内7 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ M2-B3群 その1

・2025年8月8日 15:04～16:00 県道川内-佐井線(カモシカライン)畑集落
北西から東へ横断時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	7	1	12
ワカモノ			1	1
4歳			3	3
3歳			4	4
2歳			4	4
1歳			2	2
Baby			4	4
計	4	7	19	30

30頭+α (内4 Baby)

※ 大人メスに電波発信機(CH5)が装着されている

◎ M2-B3群 その2

今回の調査で未確認

※M2-B3群については、2022年の調査で45頭+αの個体数をカウントしていた。また、電波発信機装着メス個体があったこともあり、毎年群れの確認していた。2023年の調査では17頭+αの個体数のカウントだった。2024年になり電波発信機装着個体の確認状況と個体数の状況から分裂している可能性が高いと判断し、その1とその2としていたが、今年度の調査で明らかに2群いる情報を得ることができなかった。

◎ 安部城北A群

・2025年8月6日 9:03~13:11 県道川内-佐井線(カモシカライン) 安部城沢
付近の道路を西から東へ横断時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	11		14
ワカモノ	4			4
4~5歳			1	1
4歳		1		1
3~4歳	2			2
3歳	1			1
2歳	1	1		2
1歳		3		3
Baby	2		4	6
計	13	16	5	34

34頭+α (内6 Baby)

- ※ 大人メスに電波発信機(CH5)が装着されている
- ※ 大人オスに鼻すじが切れている個体がいる。

◎ 安部城北B群

今回の調査で未確認

◎ 湯の小沢の群れ

今回の調査で未確認

【 大畑・薬研地区 】

【 ゲート東側 大畑川下流部 】

◎ I2-A1群 (キノップA群)

・2025年12月24日 8:47~9:25 国道279号線新道 旧二枚橋小学校西ののり面

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	9		12

ワカモノ		1		1
3~4歳	1	1		2
2歳		2		2
1歳		1	1	2
Baby	1		2	3
計	5	14	3	22

22頭+α (内3 Baby)

※ 大畑町の野猿監視員の情報では2025年12月10日に風間浦で捕獲し電波発信機を装着しているとのこと。テレメの確認をしなかった。

※ 鼻先が欠けている老メスがいた。

◎ I2-A2群 (キノップB群)

・2025年12月20日 12:25~13:05 国道279号線 ハーモニー橋北100m地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ		2	1	3
3~4歳			3	3
2歳			1	1
Baby			1	1
計	1	7	6	14

14頭+α (内1 Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない

◎ I2-C群

今回の調査で未確認

◎ Ka群

・2026年3月10日 11:20~11:45

大畑-佐井線 紅葉橋周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	12	3	16
ワカモノ	2	1		3

4~5歳	1			1
3~4歳			1	1
2~3歳			5	5
1歳			3	3
Baby			5	5
計	4	13	17	34

34頭(内5Baby)

※電波発信機装着個体はいない

◎ Ko-A1群(イロハA群)

・2025年12月24日 9:13~10:50 小目名沢林道の小目名沢と材木沢の合流地点を南から北へ移動時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	7	18	3	28
ワカモノ			9	9
3歳			4	4
2歳			8	8
1歳			7	7
Baby			4	4
計	7	18	35	60

60頭+α (内4 Baby)

※電波発信機は装着されていない。

◎ Ko-A2-a群(イロハB1群)

今年度調査を実施しなかった

◎ Ko-A2-b群(イロハB2群)

・2026年3月10日 10:25~11:05 大畑町運動公園を東から西へ移動時

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	10		11
ワカモノ	1	1		2
2歳			2	2

1歳			3	3
Baby			6	6
計	2	11	11	24

24頭(内6Baby)

※大人メス1頭(黄色テープ)に電波発信機が装着されている

◎ Ko-B1群(ハイロA群)

・2025年12月23日

佐藤ヶ平林道の薬研野営場から北上した林道との出
会い付近を東から西へ移動する本日分の足跡

18頭+α【足跡】

(大10、中5、小3)

※電波発信機は装着されていない

◎ Ko-B2群(ハイロB群)

・2025年12月21日 15:00~15:25

高橋川集落周辺

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ			1	1
3~4歳			2	2
3歳			1	1
2~3歳			1	1
2歳			1	1
1歳			1	1
Baby			1	1
計	1	5	8	14

14頭+α (内1Baby)

※ 電波発信機は装着されていない。

※ 鼻の右側が欠けている老メスがいます

◎ S2群(恐山の群れ)

・2025年12月24日

釜の沢林道最上部

食痕、サルが通った跡がすじとなっているフィールドサインで確認した

【 ゲート西側 大畑川上流部 】

大畑川上流部に生息するサルの群れには、すべて電波発信機は装着されていない

◎ I3-A 群

I3-A 群は 2024 年 12 月 23 日の観察で 74 頭 + α を確認している。今回、前回の個体数を数えることがなかった。分派、分裂していることもあり、I3-A 群関連と推測できるサルの情報を報告する。

● I3-A 群 その 1

・ 2025 年 12 月 23 日 近藤沢と烏沢との間、二階滝沢林道を西から東へ移動する足跡
18 頭 + α 【足跡】

● I3-A 群 その 2

・ 2025 年 12 月 22 日 14:35~14:45 奥薬研ゲートより西 1.5 km 地点 大畑川左岸斜面
8 頭 + α (内 1Baby)

● I3-A 群 その 3

・ 2025 年 12 月 22 日 新右衛門沢林道の終点地点 南東方向並びに北西方向へ移動する足跡
6 頭 + α 【足跡】

◎ M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)

・ 2025 年 12 月 22 日 13:19~14:07 大畑-佐井線 「薬研まで 11 km」看板地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	5	12		17
ワカモノ	4	4	1	9
4~5 歳	1			1
3~4 歳		2	1	3
3 歳			2	2
2~3 歳		1		1
2 歳		1	2	3
1 歳			3	3
Baby			3	3

計	10	20	12	42
---	----	----	----	----

42頭+ α (内 3Baby)

◎ M2-A2 群 (上狄沢の群れ)

・2025年12月21日

上狄沢林道の最初の分岐 北から南へ林道を横断する足跡

17頭+ α 【足跡】

(大10、中4、小3)

◎ M2-A3 群 (囲沢の群れ)

・2025年12月22日

囲沢林道右股、鞍部地点で西から東へ林道を横断する足跡

24頭+ α 【足跡】

◎ M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)

・2025年12月22日 11:14~12:20

三太郎沢奥の三又の右股の沢の最深部

◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	1		2
ワカモノ			1	1
3歳			1	1
2歳			1	1
Baby			1	1
計	1	1	4	6

6頭+ α (内 1 Baby)

◎ S1-A 群(新田 A 群)

今回は未調査

◎ S1-B 群(新田 B 群)

今回は未調査

『 「脇野沢・川内地区」・「大畑・薬研地区」以外のむつ市 』

◎ 不明群

・2025年4月上旬

市民からの情報

大湊浜町 常楽寺近くの林縁

多数のサル

Ⅲ まとめ

2025年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果

	群れ名	個体数	調査日	調査地	2024年度
脇野沢・川内地区					
1)	A2-84A 群	27 頭(8B)	2026-3-18	瀬野黒岩ソバ休耕地	24 頭 (2B)
2)	A2-84B 群	4 頭	2026-3-2	白岩 海岸線	9 頭
3)	A2-85 群	24 頭+ α (3B)	2025-11-25	口広沢出合い	24 頭 (4B)
4)	A87-A 群	72 頭(12B)	2026-3-16	瀬野黒岩ソバ休耕地	93 頭 (13B)
5)	A87-B 群	56 頭(12B)	2025-6-30	九艘泊集落 横断時	44 頭+ α (4B)
6)	O1-A1 群	33 頭(9B)	2025-8-6	滝山橋 横断時	23 頭+ α (2B)
7)	O1-A2 群	70 頭+ α (16B)	2025-7-11	七引橋東 脇野沢川を横断時	71 頭 (9B)
8)	O1-B 群	39 頭+ α (8B)	2025-8-4	源藤城集落北 国道 338 号線を横断時	36 頭+ α (5B)
9)	O2-A1 群	31 頭+ α (7B)	2025-6-28	国道 338 号線 M 字カーブ	30 頭+ α (2B)
10)	O2-A2 群	32 頭+ α (6B)	2025-8-9	国道 338 号線 流汗台南	33 頭+ α (4B)
11)	O2-B 群	53 頭+ α (9B)	2025-7-24	国道 338 号線 旧イノシシ飼育場北	53 頭+ α (4B)
12)	男川 A 群	5 頭+ α	2025-8-6	宿野部川林道 貯木場	9 頭+ α (1B)
13)	男川 B 群	24 頭+ α (4B)	2025-8-6	男川林道 板家戸沢林道	29 頭+ α (4B)
14)	M2-B1 群	15 頭+ α (5B)	2025-8-9	県道川内一佐井線 湯野川開拓	28 頭+ α (3B)
15)	M2-B2 群	43 頭+ α (7B)	2025-8-6	県道川内一佐井線 佐井村との境尾根	33 頭+ α (7B)
16)	M2-B3 群 その 1	30 頭+ α (4B)	2025-8-8	県道川内一佐井線 畑集落	20 頭+ α (2B)
	M2-B3 群 その 2	未確認			30 頭 (2B)
17)	湯の小川沢の群れ	未確認			未確認
18)	安部城北 A 群	34 頭+ α (6B)	2025-8-6	県道川内一佐井線 安部城沢付近を横断時	35 頭+ α (3B)
19)	安部城北 B 群	未確認			未確認

大畑・葉研地区					
20)	I2-A1 群 (キノップA群)	22頭+ α (3B)	2025-12-24	国道 279 号新道 旧二枚 橋小西ののり面	27頭+ α (6B)
21)	I2-A2 群 (キノップB群)	14頭+ α (1B)	2025-12-20	国道 279 号線 ハーモニ 一橋北	11頭+ α (2B)
22)	I2-C 群	未確認			31頭+ α (2B)
23)	Ka 群	34頭(5B)	2026-3-10	大畑-佐井線 紅葉橋周 辺	16頭+ α 【足跡】
24)	Ko-A1 群 (イロハA群)	60頭+ α (4B)	2025-12-24	小目名沢林道	30頭+ α 【足跡】
25)	Ko-A2-a 群 (イロハB1群)	個調査			未確認
26)	Ko-A2-b 群 (イロハB2群)	24頭(6B)	2026-3-10	大畑町運動公園入口付近 を横断時	25頭+ α (2B)
27)	Ko-B1 群 (ハイロA群)	18頭+ α 【足跡】	2025-12-23	佐藤ヶ平林道	31頭+ α (3B)
28)	Ko-B2 群 (ハイロB群)	14頭+ α (1B)	2025-12-21	高橋川集落周辺	19頭+ α
29)	I3-A 群 その1	18頭+ α 【足跡】	2025-12-23	佐井-大畑線 二階滝沢 林道	74頭+ α (4B)
	I3-A 群 その2	8頭+ α (1B) 【足跡】	2025-12-22	佐井-大畑線 奥葉研ゲ ート西 1.5 km地点	
	I3-A 群 その3	6頭+ α 【足跡】	2025-12-22	新右衛門沢林道 終点地 点	
30)	M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)	42頭+ α (3B)	2025-12-22	佐井-大畑線 右衛門四 郎沢出合西	28頭+ α 【足跡】
31)	M2-A2 群 (上狄沢の群れ)	17頭+ α 【足跡】	2025-12-21	大畑-川内線 上狄沢林 道	17頭+ α 【足跡】
32)	M2-A3 群 (囲井沢の群れ)	24頭+ α 【足跡】	2025-12-22	囲沢林道 右股鞍部	4頭+ α 【足跡】
33)	M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)	6頭+ α (1B)	2025-12-22	三太郎沢林道最深部	未確認
34)	S1-A 群 (新田A群)	未調査			未調査
35)	S1-B 群	未調査			未調査

	(新田 B 群)				
36)	S2 群 (恐山の群れ)	フィールドサ インのみ	2024-12-24	釜の沢林道最深部	
	不明群	多数のサル	2025-4 上旬	大湊浜町 常楽寺近く	市民からの情報

- ※ 2022 年度の報告書まで B 群と U 群の情報を記載していたが、長らく群れの確認がとれておらず、未掲載とした。ただ、男川の群れが B 群そのものか、B 群由来の群れである可能性が高いということを記しておく。
- ※ 脇野沢・川内地区の群れは電波発信機が装着している群れや、群れに特徴のあるサルがいて、群れの同定が可能な群れが多く、群れの重複の可能性は少ない。ただ、やはり一斉調査で同日同時刻に群れの観察をするという基本は必要と思われる。
- ※ 群れ捕獲、個体数調整による捕獲等の捕獲対象群については、調査カウントした時点から 2026 年 3 月末までの間に捕獲した個体もいることから、調査結果よりも個体数が減っている群れもある。
- ※ 2025 年の山の実りの状況は、ブナは大凶作、ミズナラ・サルナシ・ヤマブドウ・ガマズミ等も不作、山の実りはすべて不作。それに加えカシノナガキイムシによるミズナラ枯れの被害が脇野沢地区の海岸線に多く見られた。山の実りが悪かったことで、サルの群れが脇野沢地区の斎場周辺のソバ畑に執着、8 月～12 月ごろまで頻繁に出没していた。
- ※ 大畑町の民家周辺のクリの木にクマ棚が多数見られた。2025 年は全国的にもクマの出没が相次いで、人身被害も多くあり社会問題となったが、下北半島でもクマの目撃が多く、むつ市管内で 181 頭のクマを捕獲、民家周辺のクリの木を伐採する地域もあり、クマに対する人の警戒心が増す年となった。
- ※ 大畑・薬研地区の Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)・S1-A 群(新田 A 群)・S1-B 群(新田 B 群)の調査は、調査日の都合上未調査となった。補足調査でも主体を大畑川流域にしたため、この 3 群を調査できなかった。特に、Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)は個体数も多く、また遊動域が国道 249 号線を東進しており、継続した調査が必要で生息実態をつかんでおく必要がある群れである。

《 各群れごとのコメント 》

- 1) **A2-84A 群** 個体数が 2024 年度では 24 頭であったが、今回 27 頭とやや増加した結果となった。ただ、カウント後 4 頭が捕獲されており、23 頭の群れとなっている。遊動域は、東は松ヶ崎、北は国道 338 号線七引地区、西は寄浪地区まで、拡大しているわけではない。脇野沢地区本村の民家周辺に出没する機会が増えている。電波発信機を大人オスと大人メスに装着している。以前まで発信していない赤色の電波発信機装着老メスは捕獲

された。

- 2) **A2-84B 群** 群れの個体数は4頭。2024年の観察では9頭だったが、捕獲が進んだことと母ザルが捕獲され、Babyが交通事故で死亡するなどして現在は4頭となっている。青色ベルトの大人メスの電波発信機は電波を発信していない。若者メスに装着している発信機が電波を発信している。大人オスが1頭、3歳のオスが1頭で、群れとして維持できるかが焦点になっている。A2-84C群のように群れが消滅する可能性もある。ただ、今のところ電波発信機装着個体がいることから群れの動向は把握できている。遊動域は、主に瀬野地区、新井田地区、寄浪地区、牛の首岬周辺の海岸線近くや県道沿いである。
- 3) **A2-85 群** 2024年度の報告では個体数は24頭であったが、今回も同数の24頭を確認した。Babyは3頭、電波発信機装着個体は2頭いるが、2頭とも電波を発信していない。遊動域は宿野部地区まで東進していたが、捕獲による個体数の減少が原因なのか、東進のスピードが緩み宿野部地区まで行かなくなっている。初秋のクリ、晩秋のカキと季節によって食べ物に執着し一定の地区に居つく傾向がある。今後、A2-84A群や男川関連の群れとの群れ間関係が注目される。
- 4) **A87-A 群** ここ数年、個体数が90頭前後の個体数が続いていたが、今年は捕獲も進み72頭を確認した。ただ、カウント後Baby2頭が捕獲され2026年3月末で70頭Baby10頭となっている。2023年11月から2026年3月末までに41頭を捕獲している。2025年度の遊動の特徴は、山の実りが最悪だったことによるものなのか、夏から初冬にかけてソバ畑に執着、刈取り後も頻繁に出没していた。遊動域の東端は国道338号線の東、田の頭沢林道口まで、瀬野黒岩、牛の首、寄波、蛸田、芋田、九艘泊地区と海岸線を主な遊動域としていた。瀬野林道の、深部やガンケ山周辺、貝崎を利用する機会は少なかった。電波発信機を装着していた大人メスが交通事故死したが、やや若めの大人メスに電波発信機が装着され、現在電波を発信している個体は2頭、発信していない個体が1頭という状況だ。今後、捕獲も進むだろうが、サブグループ化する機会も増え、分裂の可能性は高い。調査・研究が進んでいる群れで、今後の保護管理やサルとの共生においても貴重な群れといえる。
- 5) **A87-B 群** 56頭、Baby12を確認した。九艘泊地区から中細間・穴間・青石と、南北に広く遊動している。A87-A群や01-B群と遊動域が重なっている。九艘泊地区ならびに芋田地区の集落への出没は多くはないが頻繁ではない。九艘泊-滝山線の自動車道路で観察することが多い。新しく電波発信機を装着し、現在2頭の大人メスについている。

- 6) O1-A1 群 電波発信機を装着しているため、群れの動向が追える群れで 33 頭 Baby9 を確認した。脇野沢川、国道 338 号線に沿って、南は斎場、北は国道 338 号ゲート北までの南北に広く遊動している。滝山地区、片貝地区や源藤城地区の電気柵の畑に出没することが多く、今後の動向を注視しなければならないし、畑から追い上げるなどの対策が急がれる群れである。
- 7) O1-A2 群 電波発信機を装着しているため、群れの動向が追える群れ、70 頭 Baby16 を確認した。2025 年秋以降、分裂またはサブグループしている可能性がある。ただ、調査としては確認できていないためカウント結果を記載する。国道 338 号線の東側を遊動している。口広川流域あたりでの目撃もあり、山深くを東進している。滝山・七引地区の畑への出没があるので、対応が必要な群れだ。
- 8) O1-B 群 大人メスに電波発信機が装着されている。今回 39 頭 Baby8 を確認できた。O1-A1 群よりも西側、西海岸線側に分布、九艘泊-滝山線の細間地域で目撃することが多い。また、国道 338 号線ゲート付近から源藤城地区の畑までにも出没している。人との接触は現状では少なく、人と出会うと逃げる群れである。
- 9) O2-A1 群 O2-A1 群は 31 頭 + α Baby7 を確認した。国道 338 号線海峡ラインの石碑よりも南を主な遊動域としている。ただ、大荒川林道入口あたりまで北上することもあり、O2-A2 群との識別が難しい。とりあえず、観察地点と同時観察等の状況で判断している。電波発信機が未装着な群れであり、なかなか実態をつかむのが難しい。国道 338 号海峡ライン上に出没し車には慣れている。
- 10) O2-A2 群 O2-A2 群は 32 頭 + α Baby6 を確認した。国道 338 号線海峡ラインの石碑よりも北、流汗台、それよりも北まで遊動する。南は M 字カーブあたりまでと遊動域が広い。O2-A1 群との区別は難しく、また、男川 B 群も同一地区に生息するため、それぞれの群れの同定がかなり難しい。電波発信機が未装着な群れであり、なかなか実態をつかむのが難しい。国道 338 号海峡ラインで車には慣れている。
- 11) O2-B 群 53 頭 + α Baby9 をカウントした。大人メスに電波発信機が装着されているが、発信していない。群れの動向がつかみにくいが、群れの識別はかろうじて可能な群れである。田の頭地区、七引地区、滝山地区、源藤城地区と集落近くから国道 338 号線海峡ラインの中流部までを主なる遊動域としている。源藤城地区や滝山地区の畑への出没も多くなり、今後追い上げなどの対策が急務となっている。
- 12) 男川 A 群 宿野部川上劇ができなかった。流部貯木場周辺で確認した 5 頭のサルの群

れを男川 A 群としたが、オスばかりの確認で鳴き声などの気配はあったが目撃はできなかった。オスグループの可能性もある。男川の中流域から宿野部川の上流域の西又沢林道、金八沢林道あたりまでを遊動域としている。A2-85 群と男川の下流域で遊動域が接するようになっている。むしろ、A2-85 群の存在が小沢地区や蛸崎地区への出沒を阻止しているとも考えられる。電波発信機はついていない。

13) 男川 B 群 24 頭 + α Baby4 を確認した。男川林道の板家戸沢出合い付近でカウント。カウント漏れがもう少しいると思われる。国道 338 号線海峡ラインに出沒した場合、O2-A1 群と O2-A2 群と混同することもある。主な遊動域は、国道 338 号線周辺と男川の松山沢より西側上流部の男川流域である。人との接触は国道 338 号で車での接触があるだけで人を見ると逃げる群れである。男川 A 群と同様に畑への出沒は皆無、山の中の群れである。電波発信機はついていない。

14) M2-B1 群 川内-佐井線カモシカラインの湯野沢開拓で 15 頭 + α Baby5 をカウントした。川内-佐井線カモシカラインのゲート周辺からその奥で観察することが多い。湯野川集落への出沒がなくはないが、頻繁ではない。電波発信機はついていない。

15) M2-B2 群 43 頭 + α Baby7 を川内-佐井線カモシカラインの町村境の尾根近くでカウント。川内-佐井線を南北に広く遊動、畑集落や湯野川集落への出沒があり、対策が必要となっている。電波発信機はついていない。

16) M2-B3 群 その 1 M2-B3 群は、2022 年に 45 頭 + α を確認、それ以前の情報から 50 頭以上、60 頭ぐらいと推測されていた。電波発信機も装着されていて調査中に群れの確認は毎年できていたが、確認できた個体数から M2-B3 群その 1 とその 2 としていたが、今回の調査でその 2 を確認できなかった。確認したサルがその 1 なのかその 2 なのかが不明なため、便宜上 M2-B3 群 その 1 として 30 頭 + α Baby4 を記載する。川内-佐井線カモシカラインのゲート付近から大戸ヶ淵小公園周辺まで南北に広く遊動している。畑集落や湯野川集落への出沒があり、対策が必要となっている。

M2-B3 群 その 2 今回の調査で確認できなかった。川内-佐井線カモシカラインのゲート付近から大戸ヶ淵小公園周辺まで南北に広く遊動している。畑集落や湯野川集落への出沒があり、対策が必要となっている。

17) 湯の小川沢の群れ 今回の調査で確認できなかった。ここ数年確認できておらず、夔川地区や角違地区に出沒しているサルの群れが湯の小川沢の群れと関連していると推測されるが、確定したものではない。

- 18) **安部城北A群** 34頭+ α Baby6を川内-佐井線の安部城沢付近で道路を横断しているときにカウント。電波発信機が装着されている。その後、調査中に小倉平集落西で確認している。北は湯野川地区、南は小倉平地区、銀杏木地区までと南北に長く遊動する。集落への出没があり、対策が必要な群れである。また、川内町のブドウ園に最も近く、群れの動向を注視しなければならない。
- 19) **安部城北B群** 2023年度の報告で39頭+ α を確認できていたが、今回の調査では群れの確認はできなかった。安部城北A群と遊動域が重なり、小倉平地区、銀杏木地区まで遊動域を広げている。安部城北B群は袈川地区で捕獲し電波発信機を装着した若いメスがいると思われるが、その電波を確認することはできなかった。遊動域を川内-佐井線よりも東へ広げている可能性がある。畑や民家への出没があり、対策が必要な群れである。川内町のブドウ園に最も近く、群れの動向を注視しなければならない。
- 20) **I2-A1群(キノップA群)** 今回の調査で22頭+ α Baby3をカウントした。捕獲対象の群れであることから個体数が減少する可能性がある。2025年12月に電波発信機を装着したとの情報を得ているが別の群れに付けた可能性もある。木野部峠で観察する機会が多くなっている。
- 21) **I2-A2群(キノップB群)** 14頭+ α Baby1を確認できた。個体数が10頭前後であることが群れの識別のポイントとなっている。個体数が少ないことや捕獲対象の群れであることから急激な個体数の増加はない。むしろ、捕獲による個体数の減少で群れそのものが消失する可能性もある。旧二枚橋小学校周辺や大畑運動公園、木野部峠などを遊動域としている。電波発信機装着個体はいない。
- 22) **I2-C群** 今回の調査では確認できなかった。木野部峠や三太郎沢林道、佐藤ヶ平林道周辺を遊動域としている。電波発信機装着個体はいないため群れの識別が難しい。ただ、ワカモノのオスに鼻に傷のあるサルがいる。
- 23) **Ka群** 34頭 Baby5を補足調査で確認した。2021年に37頭のフルカウントに近い観察を得ている。5年経過していることから分裂していることも考えられる。電波発信機装着個体はいない。大畑-佐井線の紅葉橋、薬研温泉周辺、奥薬研あたりまでが遊動域としている。
- 24) **Ko-A1群(イロハA群)** 小目名林道の入口あたり、材木沢林道で60頭+ α Baby4を確認。佐井-大畑線の薬研温泉郷、ウグイ滝林道、薬研橋、小目名地区あたりの大

畑川両岸で観察する機会が多い群れ。電波発信機はついていない。

- 25) **Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)** 今回の調査では調査の対象にはならなかった。調査の日程や人員の都合で調査そのものを実施できなかった。2023年、関根地区の見付川を横切る73頭をフルカウントしていたが、個体数も多く、国道279号線を東進している群れでもあり、継続した生息実態調査が必要な群れである。すでに東通村大利地区へ出没している可能性があり、猿害対策が急務な群れである。電波発信機は装着されている。
- 26) **Ko-A2-b 群(イロハ B2 群)** 電波発信機がついていることもあり調査が継続されている群れである。大畑町川代地区から木野部峠までの民家周辺を移動している。今回、補足調査で24頭+ α Baby6を確認できた。民家周辺を生息域としているため、対策が急務な群れである。捕獲対象群であることから個体数が減少することが推測される。
- 27) **Ko-B1 群(ハイロ A 群)** 佐井-大畑線の紅葉橋より下流、小目名地区までの左岸でよく観察される。今回、18頭+ α の当日の足跡を確認。大畑川左岸の佐藤ヶ平林道で薬研温泉方向からの足跡を観察した。電波発信機はついていない。小目名集落にも出没することから対策が必要な群れである。
- 28) **Ko-B2 群(ハイロ B 群)** Ko-B2 群は、Ko-B1 群と遊動域が重なっており、群れの同定が難しい。今回、14頭+ α Baby1を高橋川集落で確認。今回の調査期間中、高橋川集落から西側の小目名集落、その西の羽色神社あたりまで移動していた。その間の観察で14頭を増えることがなく、+ α は少ないものと推測される。Ko-B1 群(ハイロ A 群)よりも個体数が少ない群れと認識している。
- 29) **I3-A 群** 大畑-佐井線の奥薬研ゲート奥、西側の烏沢林道入口付近から近藤沢林道入口、下獅子沢林道あたりまでの大畑川両岸を遊動域としている。2023年度の観察で42頭、2022年度の観察で61頭、2021年度では79頭の足跡を確認している。ここ数年の調査で60~70頭の個体数を確認できていない。今回も同様で、すくなくとも3つに分派または分裂しているものと思われる。I3-A 群その1は大畑川左岸の二階滝沢林道~烏沢林道へ移動する18頭+ α の足跡。大畑川の烏沢入口東の川沿いの低地で多数の足跡が入り乱れていることからもう少し個体数があるものと推測される。I3-A 群その2は佐井-大畑線の奥薬研ゲート西の本線上で足跡と目視で8頭+ α Baby1を確認したが、たまたま少数が道路近くに出ていて、本体は奥の斜面にいた可能性もある。I3-A 群その3は、これまでもたびたび観察してきた新右衛門林道で6頭+ α を足跡で確認した。林道奥を行ったり来たりしているもので、それほど多くはいないと推測

された。まだまだはっきりとしない点も多く、今後の調査の課題でもある。

- 30) **M2-A1 群(弥一郎沢の群れ)** M2-A 群関連の 4 つの群れは、個体識別できる個体や電波発信機が装着されている個体がないことで、群れの同定は個体数と目撃地点、足跡の観察地点等を総合して判定している。M2-A1 群は、大畑川左岸の近藤沢、仁助沢、弥一郎沢、右衛門四郎沢を主な遊動域としている。今回、大畑-佐井線の右衛門四郎沢出合いよりも西で 42 頭 + α Baby3 を確認した。+ α は鳴き声などの状況からもう少しいる模様。50 頭を越える群れと認識している。
- 31) **M2-A2 群(上狄沢の群れ)** M2-A2 群(上狄沢の群れ)は、大畑川の両岸、右衛門四郎沢、太兵衛川、仁部川、長次郎川、上狄沢周辺を遊動域としている。今回 17 頭 + α (足跡)を上狄沢林道で確認した。2022 年では 61 頭を確認していることから、分裂、分派している可能性もある。
- 32) **M2-A3 群(囲井沢の群れ)** M2-A3 群(囲井沢の群れ)は、分裂の可能性があることをここ数年報告していたが、今回も分裂の確証はつかめなかった。今回、囲沢林道の右股の林道鞍部で 24 頭 + α の足跡を確認した。すべて大き目の足跡ばかりで数日後の跡であることからもう少し個体数はいるものと推測された。
- 33) **M2-A4 群(三太郎沢の群れ)** M2-A4 群(三太郎沢の群れ)は、近年、三太郎沢の出合で I3-A 群を観察する機会が多く、なかなか三太郎沢の沢深くまで踏査が出来ていなかったこともあり、M2-A4 群(三太郎沢の群れ)の観察ができていなかったが、今回、6 頭 + α Baby1 を三太郎沢最深部で目視できた。個体数としてはもう少しいる可能性がある。ただ、I3-A 群の分派または分裂群という可能性もあり、今後の調査に委ねたい。
- 34) **S1-A 群(新田 A 群)** 今回の冬季調査、ならびに補足調査では、調査そのものを実施しなかった。2022 年、野猿監視員からの聞き取りで約 30 頭の群れとの情報を得ている。むつ市の名古牧野、宮後牧野、長坂あたりを遊動している。民家周辺に出没することが多く、また、遊動域を西へ移動させている。電波発信機が装着されている。
- 35) **S1-B 群(新田 B 群)** 今回の冬季調査、ならびに補足調査では、調査そのものを実施しなかった。2022 年、野猿監視員からの聞き取りで約 42 頭の群れとの情報を得ている。分裂している可能性もある。むつ市の恐山街道の長坂、落野沢、新町水源地周辺を遊動している。猿害対策が必要となっている。電波発信機が装着されている。

36) S2 群(恐山の群れ) 今回の調査で釜の沢林道を3日間、踏査をしたが群れの発見はなかった。ただ、釜の沢林道に積雪が少なく、かなり奥まで車で入ることができ、食痕や古い足跡等のフィールドサインを確認することができた。釜の沢林道、ひとつ尾根を越えたウグイ滝沢林道あたりを遊動域としている。

不明群 2025年4月上旬、むつ市大湊浜町の常楽寺近くの林縁で多数のサルを目撃情報を市民から得た。S1群関連と推測できるが、詳細は不明。

むつ市管内 脇野沢・川内・大畑地区のニホンザル

2025 年度調査結果

[2024 年度調査結果]

《 脇野沢地区 》

群れ数	13 群	[12 群]
個体数	470 頭 + α (内 94B)	[478 頭 + α (内 54B)]

※ むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1 群)は含まない。

《 川内地区 》

群れ数	6 群	[6 群]
個体数	122 頭 + α (内 22B)	[146 頭 + α (内 15B)]

《 大畑・葉研地区 》

群れ数	17 群	[17 群]
個体数	307 頭 + α (内 13B)	[341 頭 + α (内 19B)]

《 むつ市全域 》

群れ数	36 群	[35 群]
個体数	899 頭 + α (内 129B)	[965 頭 + α (内 88B)]

脇野沢地区は、各群れとも精度の高い結果が得られた。群れ数に関しては、1 群増加の 13 群、O2-A 群が分裂したためである。また、A87-A 群、O1-A2 群の個体数が 70 頭を越えていることから分裂の可能性が高まっている。特に、A87-A 群は 2025 年の秋以降、たびたびサブグルーピングをしており、分裂の前兆が見られる。個体数に関しては、ほぼ同数を確認したが、Baby 出産数との兼ね合いから、捕獲が進んでいることが個体数の結果としてうかがえるし、現実に捕獲対象群で捕獲が進んでいる。個体数の増減は捕獲との兼ね合いが強いため、その動向を追い続ける必要がある。Baby の出産数は、94 頭で前年度の 54 頭よりも大幅に増加した。これは 2024 年のブナをはじめ山の実りが大豊作だったことが影響しているものと考えられる。また、捕獲対象群は、年齢や性といった群れの構成が不自然な状況になる恐れがある。A2-84B 群が 4 頭となり、群れの維持ができなくなる可能性がある。

遊動域については、O1-A2 群が口広川流域まで東進している。A2-85 群や男川 A 群とのかかわりが注目される。A2-85 群はこれまで宿野部地区西側まで遊動していたが、近年捕獲がす

すみ、個体数が減少したことが原因なのか、宿野部地区までの遊動は観察していない。A87-A群が国道 338 号線を東側まで遊動域を広げている。今回、猛暑と山の実りが大凶作だったこともあり、脇野沢川流域のソバ畑への出沒が頻繁にあり、狭い範囲に執着する傾向が見られた。

川内地区では、群れの数は 6 群と同数だが、M2-B3 群が分裂している可能性が高い。今回の調査で分裂を確認したかったが、一つの群れしか目撃できず、分裂の確認は来年度の課題となった。個体数と Baby の出産数は、個体数がやや減、Baby の出産数はやや増となった。ただ、フルカウントできた群れが少なく、群れ自体の確認が取れていないため、個体数、ならびに Baby の出産数はもう少し上がるだろう。

遊動域については、安部城北 A 群、安部城北 B 群ともに上下小倉平地区や銀杏木地区まで南下している。また、下北ワインのワイナリーに最も近い群れであり、その動向に注視し、早急な対策が必要である。近年、国道 338 号線沿いで群れの目撃があることから出沒する群れの同定をし、民家周辺への出沒を早めに対策する必要がある。川内川流域には今回の結果に湯の小川沢の群れと M2-B3 群、安部城北 B 群の個体数を加味して 6 群、約 200 頭のサルが生息しているものと推測できる。

大畑・薬研地区は、群れ数は 2024 年度と同数であったが、個体数、Baby の出産数ともに減少した。確認できる群れが少なく、また、確認できたとしても目視ではなく足跡による確認が多く、まだまだ全貌が明らかになっていないことが原因で、調査の難しさの表れだ。個体数が 70 頭を越える Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)、I3-A 群が近々分裂することが予測される。特に、Ko-A2-a 群(イロハ B1 群)は、国道 279 号線を東進し、東通村大利地区まで遊動域を広げていることから、分裂の結果、国道 279 号線より東側に分裂群が定着することが懸念される。I3-A 群はすでに分裂している可能性があり、今回の調査で 3 つに分かれていると推測される。奥薬研のゲートよりも奥(西側)については、不明なことが多いが、継続した調査を続けて、その都度観察した結果を記録していきたい。S1-A 群、S1-B 群についても、旧むつ市街地の恐山街道沿いや水源地あたりの民家の背後の林縁部を西へ移動している。今までサルの出沒がなかった地域への出沒が予測される。早めの対策が望まれる。

むつ市全域では群れ数は 2024 年度から 1 群増の 36 群であった。個体数ならびに Baby の出産数は、個体数が 66 頭減、出産数は 46 頭増となった。個体数の減少は捕獲によるものと思われる。Baby の出産数の増加は 2024 年のブナをはじめ山の実りが豊作だったことの影響だろう。現状ではハナレザルの数も考慮してむつ市全域で最低 1200 頭のニホンザルが生息していると推測できる。遊動域は、むつ市の市街地を除く全域にサルの分布が広がっていることが推測される。もちろん、山深くまで調査が行き届かない地域もあり、確定とはいかないが、群れの生息状況、利用頻度に濃淡はあるものの全域に広がっていると推定しうる状況になっている。

2025 年野春ごろからカシノナガキクイムシによるナラ枯れが顕著となっている。特に、脇野沢地区の海岸線の比較的太いミズナラが枯れている。今後、この被害によるサルへの影響についても見つめていきたい。

大分下北行ったり来たり

～高崎山と下北半島のサル雑感～

上野 真弓

1. 下北のサルは大きい

「小さい!」「かわいい～」

九州は大分県大分市にある高崎山自然動物園に来られたお客さんが、サルに会って最初によく発する言葉です。

私はサル好きが高じて、4年前からここで会計年度任用職員として働いています。入園口業務なので直接サルには接しませんが、休憩時や休日には客のひとりとして寄せ場でサルの観察をしたりガイドスタッフと話をしたりと、サル三昧しています。

もともと福岡で暮らしていた私は、2012年封切の映画「日本列島生きものたちの物語」を見て下北半島のサル(松岡史朗氏撮影)のエピソードに心を奪われ、サルのことをいろいろ知りたくて隣県の高崎山始め犬山の霊長類研究所や日本モンキーセンターなどに通い出し、2016年からは下北のサル調査に参加するようになりました。

お客さんが感じているように、高崎山のサルを見慣れた目で下北の調査に行くと、下北のサルはずいぶん大きく見えます。立派なおスだなどと思ったらメスだったとか、2～3歳の大きさに見えたのが実は1歳児だったとか、下北サイズに感覚が戻るまで毎回一苦労しています。

資料によると、体重は高崎山のオトナオスで9～13kg、オトナメスで7～10kg、下北のオトナオスで13～15kg、オトナメスで9～13kgとのこと。確かに下北は高崎山の2割以上増しのサイズで、大きく見えるわけです。

高崎山と下北を行ったり来たりしながら、それぞれのサルを見ていて感じる事、思うことが他にもあります。今回それをお伝えできたらと思います。

2. 高崎山の群れサイズは群を抜いている

ご存知の方も多いでしょうが、高崎山は瀬戸内海の西端、別府湾にせり出した高さ628mの溶岩ドームの山で、ここには江戸時代にすでにサルがいたことが書物に記されています。戦後、1952年に農業被害対策と観光資源としての活用をねらって餌付けが試みられ、翌年に高崎山自然動物園として開園し、以来大分市の観光名所の一つとなっています。

国道10号沿いの駐車場から入園口まで歩いて5分、そこからサル寄せ場まで坂道や階段を歩いて5～6分もしくはモノレールで4分というアクセスの良さで、大群の野生のサルたちに出会うことができます。

サル寄せ場には現在2つの群れが山から下りてきます。山の東側(大分市側)を遊動域とするB群514頭、西側(別府市側)のC群246頭(2025年12月時点)です。この頭数の多さは餌付けの影響がもちろんあると思われますが、餌付け前の1950年秋、伊谷純一郎氏が山中でカウントしたのは166頭余り。また餌付け直後の1953年春の調査で220頭内外だったとあり、もともとこの

くらいのサイズであったことに驚きます。

下北の調査対象の群れは多いもので90頭、少ないもので10頭ほどです。福岡の私の家周辺にも時々サルの群れが出没しますが、確認したのは30頭ほどです。霊長開発行の図鑑では野生群のサイズは平均40頭程度(ばらつきは大きい)とあるので、高崎山の群れはやはりただならぬ大きさだと言えます。

3. 体つきや顔つきにもそれぞれの特徴

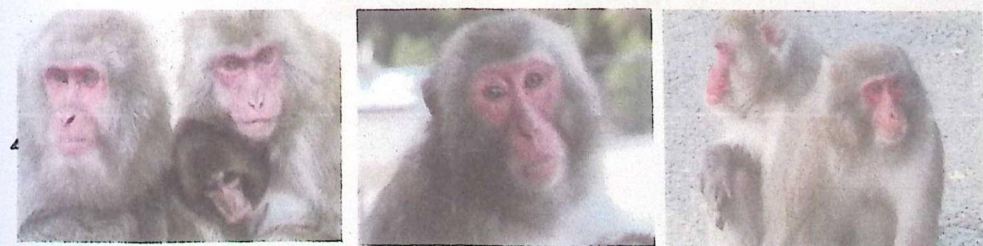
高崎山のサルの体毛は黒っぽくて短く、見に来た人に「手足が長くてモデル体型」と言われたり、換毛期には「坊主頭」「まるで裸」と言われたりもします。オトナメスが歩くのを後ろから見ると、太ももからお尻にかけて毛はなく切れ上がり、睾丸のあるオスとの見分けは容易にできます。(写真は高崎山)



下北のサルは毛色が白っぽく、長くふさふさしています。特に冬毛はその毛量の多さで出ている顔部分が小さく見えたり、足の付け根付近にも毛が覆いかぶさって未熟者の私にはオスメスが見分けにくかったりします。シルバーグレイの美しい冬毛は下北のサルの代名詞で、「下北のサルを見るなら冬こなくちゃ！」と私も言われましたし、実際に来てみて人に言うようにもなりました。

下北のサルの毛替わりは6月上旬頃から始まり、7月にはすっかり夏毛に変身、8月中旬頃から徐々に冬毛へと移行するそうです。高崎山のサルは早い個体で5月、ほとんどのサルは6~7月ごろ夏毛へ移行し、冬毛になるのは10~11月ごろです。下北のサルに比べ夏毛の期間が長く冬毛の期間が短いのは、温暖な気候に暮らしていることの表れでしょうね。

顔つきにも違いを感じます。高崎山のサルを見慣れた目で下北のサルをみると、面長で鼻筋が通っていてとてもヒトっぽく感じます。ちなみに福岡で見るサルは高崎山と体型や顔つきがそっくりで、「ナイトくん、こんなところに?」「エリマキさんやないの~!」など、個体識別している高崎山の彼や彼女の名前がするっと出てくるほどです。下北のサルに比べると、丸い顔に短めの鼻。北部九州のサルってみなこんな感じなのかな?別の所でも会ってみたいなと思っています。(写真は高崎山)



出産期にも違いが見られます。高崎山では早くて4月下旬から始まり6月がピークで8月まで続き、10月に出産することもあります。

下北では 出産月は4・5・6月に集中し5月が全体の半数以上で、2月中旬雪の中での出産の観察や8月上旬に出産した記録もあるそうです。厳しい冬がはじまる前に赤ん坊がある程度育ち上がるようにと、下北のサルの出産は早く始まるのでしょうか。関連して発情・交尾行動の期間は下北が9～12月ごろ、高崎山は11～2月ごろのようです。

ところで高崎山のサルは餌付けされているとはいえ野生のサルですから、日が暮れる前に山に帰り一夜を過ごします。出産もその山の中で行われ、翌日寄せ場においてきたときにへその緒のついた赤ん坊を母ザルが連れてくることから、そのメスの出産が分かります。まれに昼間、寄せ場に降りているときにメスが出産することがあり、私も昨夏それを見る機会に恵まれました。

2025年6月27日午後4時の餌付けで、仲間たちがまかれた小麦をせっせと拾って口に運ぶのをよそに、石段で横になっていたオトナメスがいました。彼女の頬袋はパンパンでした。陣痛が始まって、ためておいたエサを食べるところではなくなっていたのでしょうか。

4時20分ごろから、身をよじり、いきみ、また横になるのを繰り返しつつ、徐々に斜面を上っていききました。そして4時39分、彼女の股間から半透明な膜に包まれた胎児が出てきました。まだ動きはなく、彼女はそのぷっくりとした膨らみの方に目をやり、少し体勢を変えてまたいきみました。

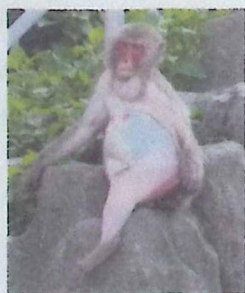
4時40分、彼女は股間の膨らみに手をやり、少し前方に動かすと羊水が一すじ流れました。濡れた手をペロペロとなめたその時でした。ざあっと赤い羊水が斜面を下るとともに、するりと赤ん坊が生まれ落ち、手足をバタバタと動かしました。

彼女は赤ん坊が斜面を滑り落ちそうになるのを手で止め、左腕で胸に抱き上げました。そして右腕で胎盤をすぐに食べ始めました。

4時42分、仲間たちが最後の餌付けでもらったサツマイモを手にとんどん山へ帰っていく中、彼女も赤ん坊を胸につかまらせ左手で胎盤を持ちながら、3本の足で駆けて山に消えて行きました。

その強靭さ。出産中も変わらぬ表情。大きな声も聞こえなかった。サルにとっては「私たちはそうなの。」でしょうが、実に圧倒された時間でした。

4:22 陣痛に耐える



4:37 いきむ



4:42 胎盤を食べる



5. 純野生のあなたたちもするんですか

最後に下北で撮れたお気に入りの写真と、そのエピソード伝えさせていただきます。

それは2024年12月25日、下北冬季調査の最終日。前日までの雪もやみ、晴れて青空と雪の白さが目にしみる日でした。前々日にも入ったウグイ滝沢林道には、リスやキツネ、テンらしき新しい足跡がたくさんついていて、よい天気になり動物たちがさかんに活動しているのがしのばれました。

しかしサル気配には出会えず正午近くになり、このまま今年の調査も終わってしまうのかと半ばあきらめかけていた矢先、サルの声がしたのです。立ち止まって耳を澄ましていると、また確かにサルの声。

はやる心で声の方へ向かうと、日の当たる樹上にサルたちの姿が。久しぶりの晴れ間にグルーミングや採食にいそしみ、コザルたちも活発に動き回っていました。枝先の雪が、サルたちの動きでバラバラと落ちていくのが、青い空に映えました。

そんな折、1頭のオトナが枝先で思いっきり体をのけぞらせて仰向けになりました。白いおなかをあらわにする、なんとも無防備な姿。高崎山のサルなら寄せ場のあちらでゴロリ、こちらでゴロリといくらでも見られます。私はそれを半分野生を忘れた姿のように捉えていました。

しかし目の前のサルは純野生の群れ。「ええー!? あなたたちもするんですかー！」と驚き、「いや、するんだよね～」とすぐに自分の思い込みがおかしくなりました。そして高崎山のサルも下北のサルもほほ笑ましく、ますますいとおしく感じたのでした。

これからも私は、サルたちに驚いたり、感心したり、ワクワクしたり、考え込んだりと心をつかみ続けられることでしょう。それを通して、日本列島に共に生きているひとりとして、小さな事でもできることに、ひとつひとつ取り組んでいきたいと思います。

高崎山 サル寄せ場で



下北 ウグイ滝沢林道脇の林で



コゴミとクルミン

NPO 法人ニホンザルフィールドステーション 中山 裕理

ニホンザルは何歳まで生きるのだろうか？和秀雄の「ニホンザル性の生理」(1982)には、日本モンキーセンターの犬山野猿公園で30歳以上、地獄谷野猿公苑で、30歳、31歳とあった。古い記載だが、河合雅雄の「ニホンザルの生態」(1969)によると、「ニホンザルの寿命は25~30歳くらいといわれている。もちろん推定であって40歳近くまで生きるという人もあるが、30歳を越えるのは少ない。」ネットで検索したところモンキーセンターの記録で37歳とあったが、野生群の記載は見つけることができなかった。例数は少ないが、87群で天寿を全うしたと考えられる2頭のメスザルについて報告する。

コゴミとクルミンと命名した2頭は、1995年生まれで松岡氏がその年出産を確認している。私は2歳から観察を始め、コゴミは2024年8月以降生存が確認されなかったので、7月29歳で死亡したと判断した。クルミンは、2025年8月が最後で、30歳で死亡とした。2頭が死亡した夏は、脇野沢としては30℃を越すような日々が続き、暑さが老齢個体にはこたえたのかもしれない。

クルミンの母親クルミは、87群が発見された1987年に初産の赤ん坊を持っていたことと体の大きさなどから5歳と推定され、30歳で死亡した。最高齢は、1987年に双子を出産し、その後出産がないまま2000年2月に死亡したサツキで、最後の出産時20歳と推定すると33歳であった。彼女は、若い頃は、餌付けされていたはずで完全な野生群個体とはいえないかもしれないが、87群の今までの観察で高齢出産の最高年齢は22歳であることを考えると33歳以上であったことはほぼ確実であろう。これらの例から、ニホンザルの寿命は30歳くらいと思われる。

出産経験のあるオトナメスの平均寿命は、交通事故などの人為的影響を除くと13頭確認されていて、21.6歳となる。若干の推定を含むサツキ、クルミ、サクラ(22歳で死亡)を除くと19.6歳となる。下北半島のニホンザルは冬場、冬芽や樹皮などしか食べ物がなく過酷な状況であると長年多くの研究者に言われているが、温暖な地域のニホンザルより、短いということはなく結構長生きしているのではないだろうか。

コゴミとクルミンは、一体何歳までニホンザルは子供を生むのか？一生のうち何頭の子供を産むのか？の疑問にも答えてくれた。

霊長類以外の哺乳類の多くは死ぬまで子供を産み続ける。「ニホンザルの生態」によると最後の出産のあと5年ほど生きるとあったが、コゴミ、クルミンの最後の出産は20歳で、その後9年、10年生きたことになる。20歳くらいで出産はしなくなったが、20歳以降も発情期

には、性皮は普段よりは赤くなり、出血も確認された。3, 4 歳のオスの子はその性皮に興味を示しのぞき込んでいたが、オトナオスとの交尾は観察されなかった。20 歳後半になると、このようなことも見られなくなった。繁殖しなくなってもなお生き続けることの適応的意味はあるのだろうか？時々、気まぐれにコザルのグルーミングを短時間しているのは、確認されたが、してあげるよりは、される時間の方がはるかに長く、老齢のメスザルが、群れの子育てに役に立っているという印象はなかった。有用な餌植物のありかを知っていて、群れの皆を誘導するといったことも、植物のフェノロジーが同調し、かつ種数の少ない冷温帯の林では、ほとんどないと考えられる。逆に、皆が、ブナやハリギリ、カラスザンショの高木に登って花芽や新芽、種子を食べているときに、自分だけ別の樹種を低木で採食したり、木の下で落ちてくる食べ残しを食べたりする光景は高齢になると目立ち、よく知っていると印象はあった。

生涯何頭の子供を出産するかに関しては、コゴミは、メス3頭、オス、5頭の8頭、クルミンは、メス4頭オス5頭の9頭であった。死亡した年齢の時、2頭ともオトナの娘が2頭同じ群れにいた。コゴミの最後の息子は9歳でまだ群れ留まってグルーミングもよく観察された。この個体は11歳になる現在も群れに留まっている。コゴミの出産した8頭の赤ん坊の死亡率は0%で、すべてのメスの子が出産年齢まで成長した。クルミンは、交通事故でオス1頭、群れの分裂年に1頭のオスの赤ん坊が死亡した(22.2%)が、やはりすべてのメスが出産年齢まで成長した。この2頭が格別に子育てがうまかったわけではなく、群れの赤ん坊の死亡率は、全体でも極めて低い。

コゴミ

大人になったコゴミの大きな特徴は、容姿であった。鼻先と上唇が欠けていて、右手すべての指の第一関節より先がない。これらの欠損は、2001年にコゴミの祖母に当たる α メスのサクラが消失後の交尾期に、サクラの長女ワラビ10歳とサクラの3女コクワ5歳の間で順位争いが激化したさなかに誰かに食いちぎられたようである。一週間ほど群れから離れ、養生(?)して、群れに戻ってきた。指先のない手でも、器用にグルーミングをしていた。欠けた上唇部分は、前歯に張り付き何年もの間、乾いた血の様な色をしていた。2014年までは前歯があったが、2015年には前歯2本の両脇の歯はなく、2020年頃にはすべての前歯がなくなった。2022年6月、尻だこの片方が、剥がれる大けがをした。座るのが痛いのか、横になっていることが多く、もう死ぬかと思ったが、やがて赤ん坊のようなピンク色の尻だこになり回復した。不思議なことに、剥がれた尻だこは片方だったのに、回復初期には、両方の尻だこ柔らかい皮膚に覆われていた。

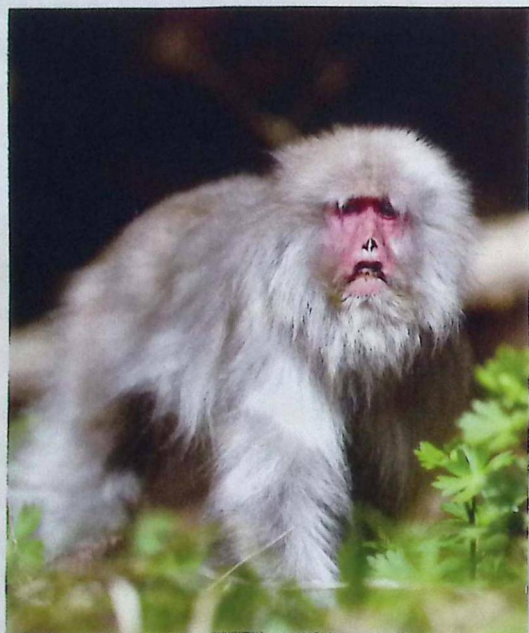
コドモの頃、ぼーっと群れを見ていた私の頭をグルーミングしてくれた唯一のサルであった。

クルミン

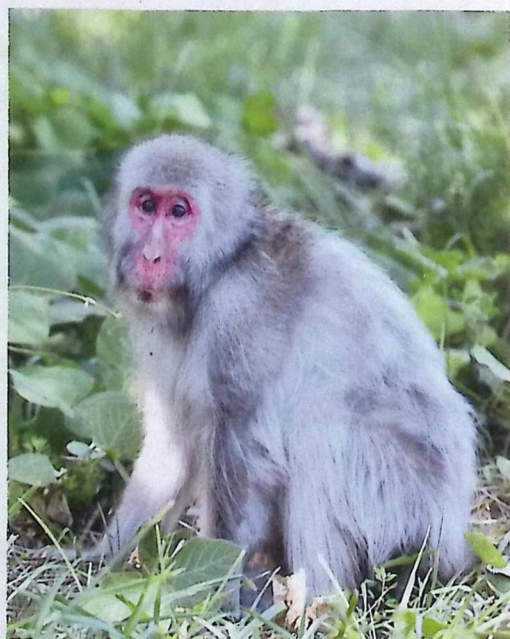
87群発見当時の3頭のメスザルの中で一番若かったクルミンの5番目の子供として生まれた。87群の中では、 α メスのサクラの娘が4頭に対し、クルミンの娘はクルミンと第9子のトチの

2頭で、血縁個体が少なくかつ低順位で、群れの縁の方にいる印象であった。若いときから多くの個体が同じ木もしくは、その周辺で同じものを食べているようなときに、1頭で別ものを食べていることがよくあり、群れの大半が移動し始めても、泰然と採食を続けていた。そのせいかコゴミのような大けがをすることもなく、30年の天寿を全うした。4頭の娘のうち1頭は、2012年の群れが分裂したときに、5歳で87B群に入った。分裂の3ヶ月後に、87A群とB群は出会い、しばらくの間、離れていた家族がグルーミングをする光景が見られたが、やがて、若いオスたちが騒ぎ出し87A群が、B群を蹴散らした。このとき、クルミンの娘は母親や姉妹のいるA群に移ることもできたはずであったが、そういうことはなかった。群れの分裂のグループ分けは、血縁以外の要因が何かあることを教えてくれたできごとであった。25歳頃から、コゴミは腰が落ち、毛艶も悪くなり、目も白濁して老いが目立ったが、クルミンは、若々しい感じがして、あと1, 2年は生きるかなと思っていた。2025年の猛暑の8月、苔むした倒木に抱きつくような姿勢で寝ているのが、最後に見た姿だった。

25年以上の間、私にいろいろなことを教えてくれた2頭の感謝する。



コゴミ 2023年3月25日撮影



クルミン 2025年7月28日撮影

謝 辞

わたしたち NPO 法人ニホンザル・フィールドステーションの活動に賛同、多大な支援をしていただきました福田裕男・あき子(故)さんご夫妻。

援助していただいたお金を「福田基金」とし、下北半島のニホンザルの調査活動費に使用させていただきました。ありがとうございました。無事、調査を終えることができました。感謝の意を申し上げます。

また、本調査の一部は、京都大学野生動物研究センターの共同利用・共同研究として実施しました。

下北半島のニホンザルの現在ならびに将来は決して楽観できる状況ではありません。私たち NPO 法人は、下北のニホンザルの今を觀つめ、彼らの尊厳を見守る活動を続けていきたいと考えています。

表紙写真

A87-A 群 メス Baby 「ヒナ」
全身の毛が薄かったが厳冬の冬を
生き抜いた。薄毛の原因は不明。

下北半島のサル

2025年度(令和7年度)調査報告書

発行者 NPO法人

ニホンザル・フィールドステーション

発行日 2026年5月10日

編集・印刷 松岡史朗

☎039-5326

青森県むつ市脇野沢桂沢90-1

TEL・FAX 0175(44)2620